発　行
福島東高等学校同窓会
住　所　福島市浜田町12-21
(024)531-1551
発行人　金子與志人
題　字　三浦賢一先生
編　集　福島東高等学校
同窓会事務局
印　刷　吾妻印刷

同窓会活動

福島東高等学校同窓会会長
金子　與志人

まずは、日頃、同窓会活動をご理解いただきご協力、ご支援たまわっていますこと御礼申し上げます。ありがとうございます。

昨年は、福島県立福島東高等学校四十周年事業を企画・検討しました。しかし、この様な状況の中で式典等を開催することは不可能と判断し校長先生と相談した結果、苦渋の決断でありましたが中止といたしました。

企画・検討の段階では保護者の方々や教職員の方々に大変お世話になりました。生徒主体の周年式典と考えていたので、もし実現出来ていたらと想像すると、とても素晴らしい式典になっていたと思います。それだけに、実現できず悔しい気持ちでいっぱいです。

しかしそんな中ではありますが、事業の一つとして準備していたパイプイス三百脚を昨年末に学校へ寄贈しました。

入学式や卒業式などに体育館で使われると思いますが、学校側からの要望を聞き、実用的な品を贈れたのではないかと思っています。

このパイプイス寄贈におきましては、皆様の同窓会費積み立て分と四十周年へのご寄付より支出いたしました。ご報告が遅くなりましたがこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

これからの同窓会費は、毎年の運営や会報作成等に使わせていただきますが五十周年への積み立てにもなります。ご理解のほど宜しくお願いいたします。

次に同窓会総会についてです。昨年が開催年でありましたが、四十周年式典もあったので式典会場で総会を開催できないかと模索しておりました。しかし、式典が中止になりましたので本来なら同窓会総会は単独で行うべきだと思いますが、この様なコロナ禍なので総会開催時期に関しては役員会に一任いただければと思います。

この会報がお手元に届くのは三月ですが、原稿執筆は世の中の状況が年末から年始に向け感染拡大がピークを継続している一月四日です。この様な中では、昨年出来なかった総会を今年開催するかどうかの判断を出来ない状況です。逆に言えば今のままなら開催は不可能と思える事態です。その様な理由から総会開催日時はもう少しお待ちいただき、決定は役員会に一任いただける様にご理解下さい。

暗い話ばかりではなく昨年は明るく新しい話題もありました。それは野球部ＯＢ会発足です。

一期生の斎藤敏朗さんが初代ＯＢ会長に就任され、昨年十二月十二日に現役生と親善試合が行われました。結果等は新聞記事で知っている方が多いと思いますが、十一対二で惨敗です。当り前の結果ですが、私としてはよく二点を取れたと敬意を表する次第です。（笑）二十点の価値はあるのではないでしょうか！（笑・笑）

私の知っている限りでは野球部と剣道部と陸上部がＯＢ会活動していると思います。もしその他の部活でＯＢ会として活動している部があればお詫び申し上げますと共に私に教えていただければ幸いです。よろしくお願いします。東高同窓会ホームページにＯＢ会をリンクできますのでご活用いただければと思います。詳細は同窓会事務局にご連絡下さい。

活動報告の最後としては、デジタル化です。政府が行っているからと言う訳ではなく、周年事業準備と同時進行で昨年から鈴木勇人副会長を中心に進めてまいりました。詳細は割愛しますが、福島東高校は毎年多くの卒業生を輩出しています。と言うことは同窓生が増える嬉しいことですが、郵送代など経費が比例して増えていきます。同窓会の本来の活動（在校生支援・会報作成・周年への積み立て）へなるべく支出できる様に考えている次第です。次世代での中で今まで以上に中身の濃い活動を目指してまいりますのでご協力をよろしくお願いします。

最後に・・・

今年に入り早三ヶ月が過ぎていますので話題として古いかもしれませんが・・・。

今年は丑年で動物の牛があてられています。牛はのんびりとしたイメージがありますが、その底力と耐久力は農耕には欠かすことのできない動物として重用されてきました。牛の一歩一歩着実に前進する姿は、目まぐるしく変化する今の世の中で暮らす私達にとっては、お手本のようなものと感じます。

「牛も千里　馬も千里」のことわざもありますように、遅速の違いはあっても目的をしっかり見据えた日々を皆様と過ごせればと節に願っています。

拙い文章を最後まで読んでいただきありがとうございました。今後も同窓会を宜しくお願いします。

「東高らしさ」

福島東高等学校長　二瓶晃一

同窓会の金子與志人会長を始め、同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対して御支援と御協力をいただき感謝申し上げます。

また、在校生は折に触れて、様々な分野で活躍されている同窓生に接するたびに、東高生としての誇りを新たにし、学習や部活動に励んでいるところです。

今年度も十一月十日に福島東高校にとって重要な学校行事である「さまざまな職業人に聞く」が、九名の同窓生をお招きして実施されました。

私も生徒と一緒に同窓生の話を拝聴しました。在校生にとって、先輩が高校の時にどんな高校生活を送っていたかや、働くことの意義や楽しさをお聞きすることは、とても貴重なことだと感じています。

ある同窓生は高校生活を次のように振り返っていました。

「毎日、部活動に打ち込んでいました。勉強については、授業はもちろん真剣に受けていたが、家庭学習の時間はあまりありませんでした。勉強は三年生のインターハイが終わってからで、ただ、その後は猛勉強をしました。結果的には、第一希望ではなかったが、なんとか大学には合格できました。」

この方は何事も真面目に一生懸命に打ち込み、最後までやり抜くタイプであり、まさに福島東高校の典型的な方だと感じました。

本校は文武両道を掲げて、四十年の歴史を刻んできました。ただ、その文武両道の中身は色々あって良いはずです。先輩のように、三年生までは部活動に専念し技術の向上はもちろん精神の鍛錬をはかり、その後、勉強に専念し大学に合格して本校を卒業していくことも、立派な文武両道です。

今年度も福島東高校で文武両道を実践すべく二百四十名の生徒が入学してきました。生徒たちは高い志を持ち、学校生活への期待に胸を膨らませています。そんな生徒たちを、本校の伝統である一人ひとりを大切にした丁寧な指導により、学習や部活動において十分に力を付けさせていきたいです。もちろん、豊かな人間性や社会性も養っていきます。

さて、ここに令和二年度の生徒たちの主な活躍をあげます。新型コロナウイルス感染症の影響により七月までは大会が開かれませんでしたので、八月以降の活躍です。

まずは、部活動です。

サッカー部は新人戦において県大会で準優勝し、十二年ぶりに東北大会への出場権を獲得しました。大会は一月二十三日（土）からJヴィレッジで開催されます。同窓生の皆様、盛大な応援をお願いします。陸上部は駅伝競技において男女ともに東北大会への出場を果たしました。男女での出場権の獲得は平成七年以来です。弓道部や柔道部でも個人戦において東北大会への出場を果たしています。ソフトボール部（男子）は安積黎明高校との合同チームで東北大会に出場しました。

文化部においては、書道部の生徒の作品が福島県高等学校総合文化祭で準大賞を受賞し、令和三年度の高等学校総合文化祭和歌山大会で作品が出展されることが決まっています。美術部においては、生徒の作品がある冊子の表紙を飾り、生徒たちのレベルの高さを多くの方々に知らしめている所です。また、本校の廊下には生徒の書道や美術の優れた作品が常時展示されています。是非、同窓生の方々にも観ていただければ幸いです。

学習面においても、本校の特徴である「三年生で伸びる東高生」は、今年も継承できるのではないかと考えています。

今年度から大学入試制度が大幅に変わりました。例えば、大学入試センター試験が大学入学共通テストに、推薦入試が学校選抜型推薦に変わったりするなどしています。そのような中で、生徒たちは、新たな入試制度の下で難関を突破し、十二月十日現在、二十七名が目標とする国公立大学に合格しています。一月十六日・十七日には大学入学共通テストが実施されます。新テストではこれまでの「知識・技能」を評価することから「思考力・表現力・判断力」が求められることになります。生徒たちは新たなテストにも十分に対応できるものと確信しています。

最後になりますが、今年度の七月に発行された東高新聞で私は、「東高の好きな所」を次のように記しました。

第一に素直で直向きに頑張っている皆さんです。

次に、あいさつがきちんとできることです。

さらに、校内に展示してある皆さんが制作した書画等です。

また、先生方が情熱を持って皆さんの指導に当たっていることも好きな所です。

最後に、漠然としているかもしれませんが、東高の学校全体の雰囲気が大好きです。それは、皆さんが勉強や部活動をすることで醸し出している雰囲気です。まさに輝いている学校という感じです。

素晴らしい生徒たちに恵まれてここまで成長してきた福島東高校が、これからもますます活気のある学校であり続けられるよう、教職員一同、全力を注いでいきます。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

［名称および事務局］
第１条　本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。
［目的および事業］
第２条　本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
第３条　本会は次の事業を行う。
　１．総会の開催
　２．会員名簿・会報の発行
　３．母校の後援
　４．その他本会の目的達成に必要な事項
［会　員］
第４条　本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。
［役　員］
第５条　本会に次の役員をおく。
　１．会　長　１　名
　２．副会長　３～５名
　３．理　事　若干名
　４．監　事　３　名
　５．幹　事　若干名
第６条　役員の選出は次のとおりとする。
　１．会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
　２．幹事は卒業年次毎に各クラスから２名を互選する。
　３．理事は幹事の中から会長が任命する。
　４．名誉会長は前会長とする。
第７条　役員の任務は次のとおりとする。
　１．会長は本会を代表し、会務を総理する。
　２．副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
　３．理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
　４．監事は会計を監査する。
　５．監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第８条　役員の任期は２年とし、再任を妨げない。
［顧　問］
第９条　本会に名誉会長と顧問をおける。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。
［総　会］
第10条　総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。
第11条　総会では次の事項を審議し決定する。
　１．事業報告並びに決算の承認
　２．事業計画並びに予算の承認
　３．役員選出
　４．規約の改廃
　５．その他重要な事項
第12条　総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条　総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。
［理事会］
第14条　理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条　理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。
［事務局］
第16条　事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条　事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。
［会　計］
第18条　本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条　本会は入会に際し、入会金6,000円・終身会費6,000円を納入する。
第20条　本会の会計年度は４月１日より翌年３月末日までとする。
第21条　年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。
附　則　１．この規約には次の規程が付属する。
　　○　在校生支援規程
　この規約は昭和58年２月28日から施行する。
　この規約は平成28年６月６日から改正する。

平成31･令和元年度 歳入歳出決算書

歳入金額　9,689,172円
歳出金額　9,123,839円
差引残額　565,333円

１．歳　入

▲は減少　単位：円

項　目	31･元年度予算額	31･元年度決算額	比較増減額	備　考
入会金	1,626,000	1,626,000	0	6,000円×271人
会費	1,626,000	1,626,000	0	6,000円×271人
前年度繰越金	433,292	433,292	0	
雑収入	4,708	263,224	258,516	預金利息,総会懇親会会費
40周年事業	0	5,000,000	5,000,000	同窓会積立金より
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	740,656	▲59,344	郵便振込(¥345,000)コンビニ決済(¥395,656)
合　計	4,490,000	9,689,172	5,199,172	

２．歳　出

項目(科目)	31･元年度予算額	31･元年度決算額	比較増減額	備　考
総務費	**120,000**	**116,540**	**3,460**	
会議費	70,000	110,540	▲40,540	会場費等
旅費	10,000	6,000	4,000	同窓会入会式･役員会等の役員旅費
需用費	40,000	0	40,000	
総会費	**50,000**	**260,120**	**▲210,120**	
運営費	50,000	260,120	▲210,120	総会懇親会費含む
事業費	**340,000**	**326,470**	**13,530**	
卒業記念品費	210,000	201,970	8,030	卒業証書ホルダー
広告費	130,000	124,500	5,500	野球,サッカー,駅伝等の応援広告
会報費	**560,000**	**561,014**	**▲1,014**	
印刷費	480,000	484,550	▲4,550	会報印刷代
名簿管理費	80,000	76,464	3,536	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	**1,205,000**	**1,327,215**	**▲122,215**	
会報郵送費	1,200,000	1,327,215	▲127,215	会報発送
情報保護費	0	0	0	
通信費	5,000	0	5,000	
在校生支援費	**1,400,000**	**726,000**	**674,000**	
在校生支援事業	1,000,000	726,000	274,000	全国大会激励金,定期演奏会,体育設備等
公開文化祭後援費	0	0	0	3年に一度の公開文化祭の支援
特別会計	400,000	0	400,000	
各種事業積立	**800,000**	**800,000**	**0**	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	400,000	400,000	0	
40周年事業	0	5,000,000	▲5,000,000	40周年事業予算として
予備費	15,000	6,480	8,520	周年事業角印作成
合　計	**4,490,000**	**9,123,839**	**▲4,633,839**	

＊項目科目間の流用を認める。

令和２年度 歳入歳出予算書

歳入金額　4,680,000円
歳出金額　4,680,000円
差引残額　0円

１．歳　入

▲は減少　単位：円

項　目	2年度予算額	31･元年度決算額	比較増減額	備　考
入会金	1,656,000	1,626,000	30,000	6,000円×276人
会費	1,656,000	1,626,000	30,000	6,000円×276人
前年度繰越金	565,333	433,292	132,041	
雑収入	2,667	263,224	▲260,557	預金利息など
40周年事業	0	5,000,000	▲5,000,000	
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	740,656	59,344	東高応援基金より
合　計	4,680,000	9,689,172	▲5,009,172	

２．歳　出

項目(科目)	2年度予算額	31･元年度決算額	比較増減額	備　考
総務費	**128,000**	**116,540**	**11,460**	
会議費	120,000	110,540	9,460	役員会旅費
旅費	8,000	6,000	2,000	入学式･卒業式等の役員旅費
需用費	0	0	0	
総会費	**0**	**260,120**	**▲260,120**	
運営費	0	260,120	▲260,120	
事業費	**950,000**	**326,470**	**623,530**	
卒業記念品費	205,000	201,970	3,030	卒業証書ホルダー
広告費	125,000	124,500	500	野球,サッカー,バスケット,駅伝等の応援広告
サイト構築費	440,000	0	440,000	
サイト運営費	180,000	0	180,000	
会報費	**565,000**	**561,014**	**3,986**	
印刷費	485,000	484,550	450	会報印刷代
名簿管理費	80,000	76,464	3,536	平成24年度より外部業者へ委託
通信費	**1,330,000**	**1,327,215**	**2,785**	
会報郵送費	1,330,000	1,327,215	2,785	会報発送
情報保護費	0	0	0	個人情報保護シール
通信費	0	0	0	返信費, 切手
在校生支援費	**1,300,000**	**726,000**	**574,000**	
在校生支援事業	1,000,000	726,000	274,000	上限年額100万円の支援
公開文化祭後援費	0	0	0	3年に一度の公開文化祭の支援
特別会計	300,000	0	300,000	
各種事業積立	**400,000**	**800,000**	**▲400,000**	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	400,000	▲400,0000	
40周年事業	0	5,000,000	▲5,000,000	
予備費	7,000	6,480	520	
合　計	**4,680,000**	**9,123,839**	**▲4,443,839**	

＊項目科目間の流用を認める。

創立四十周年記念事業を振り返って

真柴　毅

令和元年六月十二日、金子與志人同窓会会長の下、「福島県立福島東高等学校創立四十周年記念事業実行委員会」が発足しました。この日は、令和元年度の同窓会役員会をウェディングエルティで開催しており、役員会終了後にＰＴＡの本部役員が合流する形で第一回実行委員会となりました。組織、予算に続き、記念事業について協議がなされ、記念式典と記念講演会の開催、記念誌の発行、記念品の作成が確認されました。記念式典と記念講演会の開催日については、部活動の大会等に配慮し、創立記念日である六月二十五日ではなく、令和二年十月十日にすることとしました。

八月八日の第二回実行委員会からは本校の大会議室を会場とし、分科会である各専門委員会も同時開催するようになりました。記念事業全体の企画・運営にあたる「総務委員会」では、記念品としてマフラータオルの作成、記念講演会は二期生の齋正機氏（日本画家）と十二期生のなすび氏（タレント）の対談といった案が出されました。募金活動の計画・立案を担当する「募金委員会」では、インターネットのサイトを立ち上げて出欠確認や振り込みができないか検討されました。記念式典の運営と記念事業を進める「式典・事業委員会」では、第一体育館のパイプ椅子の購入について意見交換がなされ、記念誌を編纂する「出版委員会」では、三十周年記念誌と同等の品質で、五十周年に向けて基礎資料となる内容にすることが確認されました。

十月一日、とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）に利用申請書を提出し、記念式典と記念講演会の会場が決定しました。

こうして十二月二十三日の第四回実行委員会までに、記念誌、パイプ椅子、マフラータオルの各業者が、それぞれ見積もり合わせの上、順次決定していきました。募金活動も一月十五日の同窓会報の発送に合わせて「募金趣意書」「振込書」を同封できるように準備が整い、同窓会サイトについてもサイトマップと決済代行、制作スケジュールの詳細が報告されました。これで創立四十周年記念事業の大枠が固まり、いよいよ記念式典と記念講演会の開催年を迎えることになりました。

しかし、令和二年四月、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため緊急事態宣言が発令されると状況は一変しました。学校においても教育長より「感染リスクが高い学習活動」についての通知があり、その中には「運動会や文化祭、学習発表会など生徒が密集して長時間活動する学校行事」も挙げられていました。

五月十一日、金子会長から学校長に、生徒の生命の安全・健康を最優先に考え、現時点において感染が収束する見通しがたたないこと、会場では人の密集が予想され、出席者全員の感染防止を徹底することが難しいことを理由に記念式典と記念講演会中止の提案があり、六月十七日の実行委員会（役員のみ）で承認されました。ただし、その他の記念事業（記念誌の発行、パイプ椅子の購入、記念タオルの作成）については継続して進めることができるように、予算を見直すことになりました。

七月、学校ホームページと同窓会サイト、新聞各社に「創立四十周年記念式典及び記念講演会の中止について」を掲載しましたが、記念式典と記念講演会の開催予定日であった十月十日は、民報新聞と民友新聞に創立四十周年を祝う広告を予定どおり掲載しました。記念講演会の講師を務めていただくはずだった齋正機氏となすび氏からも在校生への応援メッセージが寄せられ、華を添えていただきました。また、福島民報社と福島民友新聞社の御厚意により在校生全員に掲載新聞が無償で配られました。

十二月に入るとパイプ椅子、記念タオル、記念誌がそれぞれ納品され、十六日の二学期の終業式に合わせて記念品贈呈式が校内放送により執り行われました。放送ではありましたが、金子会長からの熱いメッセージはコロナ禍を生きる在校生の一人ひとりの心に確かに届けられました。贈呈式後、最後の実行委員会（役員のみ）が開催され、会務報告、決算報告、監査報告をもって、実行委員会は解散しました。

このたびの四十周年記念事業に際しましては、同窓生の皆様から数々の心温まる御厚情をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染防止の観点から記念式典と記念講演会は中止とさせていただきましたが、お陰様でその他の記念事業につきましては予定どおり実施することができました。これもひとえに、皆様方の御尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。これを契機に、開校当時の関係者の皆様の御心情に思いを致しながら、新しい伝統を目指して努力する所存でございますので、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「東高応援基金」協賛者名

（敬称略）

※（）は卒業期、（　）は旧姓

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございました。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いします。同封した振込み用紙または同窓会のサイトにてお願いします。その際、おわかりになっていれば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

卒業生

西山尚利(1)尾形幸男(1)高野典夫(1)秋山達也(1)橘内重康(1)三浦信彦(1)加藤和宏(1)佐戸川政実(1)阿部昌彦(1)大平睦生(1)菊池浩二(1)田村健(1)宍戸佐寿(2)小野浩樹(2)渡辺伸一(2)目黒幹浩(2)津田克也(2)渡辺武浩(2)永井貴博(2)真下博行(2)金子與志人(3)佐久間真二(3)尾形典良(3)鈴木友彦(3)佐藤智彦(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)佐藤和生(3)山田昌信(3)岡田正明(3)小林雄(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)西條正美(3)菅野功(3)紺野勝弘(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)須田秀一(3)峯智和(4)丹治仁(4)吉川裕(4)大井学(4)松本重明(4)渡辺政彦(4)佐々木正則(4)佐藤真一(4)星達雄(4)梅津清(4)古関邦彦(4)誉田勝彦(5)齋藤（古関）徹(5)菅野晃弘(5)三宅一秀(5)尾形隆(5)上川高志(5)宮本隆(5)小野友史(5)小竹智行(5)作山稔樹(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)渡辺裕哉(5)橋本一弘(5)福地誠志(6)丹治裕一(6)小熊弘人(6)高橋城士(6)渋谷邦光(6)桂山洋幸(6)久納慎一(6)猪狩真(6)鈴木一義(6)鳴原誠(6)長谷川剛志(7)大槻勉(7)松本琢也(7)宍戸敢一(7)渡部泰史(7)大波哲也(7)東城幸治(8)阿部崇(8)安齋晃(8)石原英明(8)武井慎(8)関克典(8)植木博隆(8)鈴木淳(8)熊坂隆(8)斎藤晃一(8)後藤政則(9)小野澤友成(9)齋藤嘉紀(9)大槻進也(9)鈴木健一(9)服部博(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)佐藤誠(10)高橋誠(10)渡辺剛智(10)内山雄史(10)佐々木靖広(10)篠崎秀(10)遠藤司(10)大竹英樹(10)石井哲司(10)熊本康(10)齋藤功(10)加藤芳史(10)熊坂隆行(10)野口幸哉(10)菅野悟史(11)宮崎康弘(11)佐竹康弘(11)吉田大助(11)角田正樹(11)小林哲也(11)芳賀利規(11)千葉正裕(11)高坂知秀(11)武藤達也(11)白川真(12)齋藤譲(12)阿部友弘(12)大槻祐司(12)川勝庸史(13)二階堂俊介(13)高済大樹(13)根本和彦(13)渡邉勝己(13)廣野功二郎(14)佐藤幸樹(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)木幡健一(14)中村光浩(14)菅野元樹(15)齋藤訓朗(15)安藤正希(15)柘植健至(15)藤田悠介(15)佐藤光太郎(15)三坂和彦(15)渡邉繁(15)栗原功(15)菅野清美(16)橋本真(16)土屋令雄(16)阿部信一(17)三浦佑一郎(17)松村（高橋）美夏(18)木内（佐瀬）智紀(18)今野陽介(18)水野裕史(18)阿部尚俊(18)片平美代子(19)浅川吉和(19)古山由佳(20)羽田真幸(20)櫻田貴志(20)齋藤（和田）和泉(20)二瓶真人(20)阿部真治(20)齋藤元(21)伊達孝浩(21)齋藤広彰(21)佐藤美智子(21)塩谷卓也(22)佐藤宏樹(22)阿部健治(22)森真奈美(22)水口秀一(23)和田（古積）かおる(23)添田英二(23)菅野数宙(24)中野孝海(24)菅野章平(24)菅野貴文(24)國分優佳(24)阿部兼太郎(24)菅野峻介(24)千代間祥之(26)菅野脩平(26)古山彩佳(27)塩谷昌之(27)佐藤芳哉(27)五十嵐絵里(28)佐藤望(28)山崎勇貴(28)澤井友平(28)松崎謙(28)加藤真弓(29)宗像麻衣(29)菅藤雄介(29)佐藤匠(29)宮田凌佑(30)幕田隆介(30)髙島麗奈(30)髙橋史弥(31)佐藤雅(31)大貫秀人(31)吉田友和(31)澤井直久(31)福富亮(32)金子耕也(32)山岸勇士郎(32)油井真理絵(32)鈴木李奈(33)丹治航(33)渡邉純哉(34)福富果歩(34)佐々木茜(34)畠みゆき(34)鈴木大貴(34)吉野嵩基(34)服部京平(35)服部幸平(35)長谷川遼(35)加藤沙和子(35)佐藤世理(35)五十嵐寛樹(35)遠藤裕(35)佐藤綾音(35)武井勇(35)佐藤直樹(35)小河原大樹(36)橘内日向子(36)齋藤朋華(36)三浦奏美(36)遠藤典(36)長田健太郎(36)鈴木藍(37)中平雅也(37)庄司拓真(37)関根暢治(37)原井汰朗(37)渡辺郁也(37)安部響紀(37)熊本航(37)丹治太一(37)

旧職員　鈴木浩一、渡辺喜市、本多光弥、三浦賢一、上川洋行、長久保宏人、渡辺州、齋藤和也、矢部邦子、渡辺裕子、菅野諭、三浦昭二、星和久、片平俊夫、原隆弘、今野充宏、渡邉ひろみ、深澤陽一、千葉宏、平山宏、千葉金之助、丹治紀雄、諏佐一夫、黒澤元省、平岩典男、田村秀夫、篠崎篤

一般個人　加藤義博

福島市役所東桜会

◎　平成二年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

在校生支援事業

【平成31・令和元年度】

○定期演奏会・発表会補助

・吹奏楽部	第36回定期演奏会	50,000円
・合唱部	第17回定期演奏会	50,000円
・ダンス部	第11回定期発表会	20,000円
・美術部	桜美展	30,000円

○全国大会出場激励金

・ソフトボール部	420,000円
・弓道部	30,000円
・放送委員会	60,000円
・サッカー部	30,000円

○体育設備支援

・ソフトボール部	36,000円

【令和２年度】

○定期演奏会・発表会補助

・合唱部	第18回定期演奏会	50,000円

○全国大会出場激励金

・美術部	60,000円
・書道部	30,000円

○体育設備支援

・バスケットボール部	237,600円

進路

進路指導主事
霜山　麻美

二〇二一年度入試には、大学入学共通テストの導入を始めとした様々な入試改革が行われることから、二〇二〇年度入試では、国公立大学・私立大学を問わず現役合格を意識した安全志向が強く見られた。二〇二〇年度の大学入試センター試験の志願者数、受験者数はともに減少した。十八歳人口の減少が大きな原因と考えられる。また、ここ数年続いた私立

（表１）　年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年
学級数 卒業者数	6 (281)	6 (265)	6 (262)	6 (283)	8 (365)	8 (361)	8 (372)	8 (376)	9 (427)	9 (423)	9 (431)	9 (421)	9 (408)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109	96	109
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291	333	299

卒業年度	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年	26期 H19年
学級数 卒業者数	9 (403)	8 (357)	8 (354)	9 (351)	9 (354)	9 (362)	9 (350)	9 (358)	9 (359)	8 (314)	8 (316)	8 (318)	8 (313)
国公立大	85	109	113	114	145	150	115	165	153	154	171	126	139
私立大	418	413	327	313	311	346	349	247	248	305	318	329	351

卒業年度	27期 H20年	28期 H21年	29期 H22年	30期 H23年	31期 H24年	32期 H25年	33期 H26年	34期 H27年	35期 H28年	36期 H29年	37期 H30年	38期 R元年
学級数 卒業者数	8 (310)	8 (307)	8 (316)	8 (311)	8 (315)	7 (281)	8 (312)	7 (275)	7 (274)	7 (275)	7 (264)	7 (270)
国公立大	165	115	134	139	109	94	102	90	100	112	80	88
私立大	240	284	265	373	319	334	438	390	362	340	340	345

（表２）　大学別合格者数（令和元・平成30・29年度入試）

	大学名	令和元年度生	平成30年度生	平成29年度生
国公立大学	北海道大	0	0	1
	北海道教育大(岩見沢)	1	0	0
	北海道教育大(旭川)	0	0	1
	北海道教育大(函館)	0	0	1
	室蘭工業大	0	0	1
	岩手大	2	0	3
	東北大	1	1	0
	宮城教育大	0	1	0
	秋田大	3	0	2
	山形大	12	9	14
	福島大	34	27	47
	茨城大	2	1	1
	筑波大	2	1	1
	宇都宮大	2	5	2
	埼玉大	1	1	2
	千葉大	1	0	0
	東京農工大	1	0	0
	新潟大	2	9	13
	上越教育大	0	1	1
	富山大	0	0	1
	金沢大	0	1	0
	名寄市立大	0	1	0
	青森公立大	2	0	1
	青森県立保健大	0	1	0
	岩手県立大	0	0	0
	宮城大	1	3	0
	秋田県立大	6	1	0
	山形県立保健医療大	1	0	1
	山形県立米沢栄養大	1	1	0
	会津大	5	2	4
	福島県立医大(看)	4	2	2
	前橋工科大	1	0	0
	高崎経済大	0	0	5
	横浜市立大	0	1	0
	新潟県立大	1	6	3
	新潟県立看護大	0	1	0
	長岡造形大	1	0	1
	都留文科大	1	1	0
	長野大	0	1	1
	福知山公立大	0	2	0
	尾道市立大	0	0	1
	鳥取環境大	0	0	1
	名桜大	0	0	1
	その他	0	0	0
	計	88	80	112

	大学名	令和元年度生	平成30年度生	平成29年度生
私立大学	仙台大	4	12	1
	東北学院大	56	56	49
	東北福祉大	22	40	33
	東北医薬科大	2	2	5
	宮城学院女子大	16	22	11
	東北芸術工科大	1	2	2
	国際医療福祉大	5	11	10
	白鴎大	16	10	9
	獨協大	1	1	2
	文教大	3	3	4
	女子栄養大	1	0	0
	神田外語大	1	0	3
	淑徳大	3	0	2
	青山学院大	2	1	1
	亜細亜大	0	1	0
	北里大	0	1	0
	國學院大	0	0	2
	国士館大	7	1	4
	駒澤大	2	0	7
	芝浦工業大	1	2	0
	成蹊大	0	0	1
	成城大	0	1	0
	専修大	3	2	6
	大東文化大	4	2	11
	玉川大	3	1	0
	中央大	3	2	3
	帝京大	1	2	5
	東海大	15	4	18
	東京理科大	2	0	0
	東京工科大	0	0	1
	東京農業大	0	9	0
	東洋大	3	1	4
	日本大	22	16	20
	日本社会事業大	0	1	0
	日本女子大	0	0	1
	法政大	2	2	3
	明治大	3	1	1
	明治学院大	1	0	1
	神奈川大	4	5	9
	関東学院大	0	1	4
	新潟医療福祉大	1	0	5
	同志社大	1	1	0
	立命館大	1	0	1
	その他	133	124	101
	計	345	340	340

現役大学等進学率…令和元年度生（86.7%）、平成30年度生（82.2%）、平成29年度生（84.8%）

大学の定員管理の適正化はほとんどの大学で昨年度の入試までに終えている様子が見られ、合格者数は増加した。

センター試験の科目別の平均点（全国）では、数学では「数学Ⅰ・数学Ａ」「数学Ⅱ・数学Ｂ」「英語（筆記）」の平均点がダウン、「地理Ｂ」「物理」の平均点がアップした。全体の平均点は文系型・理系型共に大きくダウンした。

文系の生徒は、センター試験においてより高い点数が求められる傾向がここ数年続いている。また、理系の生徒は、理科二科目の対策に早めに取り掛かる必要がある。

国公立大学の志願者数は十八歳人口の減少とセンター試験の平均点下降の影響により減少した。特に難関大を除く国公立大学でこの傾向は顕著であったが、前年入試で倍率が低かった大学では志願者数の増加が目立った。医薬学系統の減少傾向は継続、人文科学、国際関係学、理学、工学系統は前年並みであった。

国公立・私立大ともに推薦・ＡＯ入試の拡大傾向が継続しており、志願者数も増加している。また、出願できる大学は限られるが、後期日程への出願者数は減少、なおかつ欠席率は六一・三％と大きく上昇している。本校でも早い段階から推薦・ＡＯ入試を積極的に受験する準備を進め、国公立大学には二十六名の生徒が合格した。また、二月中の課外に真剣に取り組み、後期日程まで粘った生徒が最後に勝利をつかんでいった。

地元の福島大学では、人間発達文化学類の教育実践、数理自然科学コース、経済経営学類を除き、志願者数、実質倍率は共に減少した。実態ボーダーの得点率は人間発達文化学類の数理自然科学コース以外は減少、特に共生システム理工、食農学類はそれぞれ六・八ポイント減少した。福島県立医科大学は医学部、看護学部共に志願者数、実質倍率、ボーダー得点率は大きく減少した。会津大学は一般選抜Ａ（センター試験は理科のみ）の志願者数は増加し実質倍率は六倍になった。

全体的には、本校では東北大学一名、福島大学三十四名、筑波大学二名、埼玉大学二名の合格者を出し、国公立大学の現役合格者数は八十八名、昨年度より八名の増加となった。

今年度は入試が大きく変わる。センター試験から大学入学共通テストへの移行、入試スケジュールの変更（総合型選抜の出願は九月から）、新型コロナウイルス感染症の影響、一般選抜での主体性評価、また共通テストにおける英語の筆記とリスニングの配点変更がある。また、福島県立医科大学は保健科学部を新しく設置した。理学療法、診療放射線等を県内の公立大学で学べる意義は大きく、生徒の希望も多い。生徒の進路実現のため、情報収集と指導を徹底していきたい。

38期総括

38期学年主任
齊藤　章子

○自己理解の一年生

三十八期学年団は、正担任に木村翔太郎、鈴木利栄、湯澤智幸、澤田美喜、小野桃子、金川勇次、齊藤章子、副担任に佐々木明美（二学期より正担任）、阿部祐太朗、木村葉月（二学期より）の先生方でスタートしました。

自然文化探究学習では、山形市で陶芸体験と山寺立石寺へ訪問しました。入学直後の行事で、さっそくクラス内での交流を雰囲気づくりにつながっていったようでした。また、校内文化祭では初めて経験するステージ発表に戸惑いつつも、クラスごとの持ち味を出した一年生らしい発表を展開しました。さらに駐日フランス大使のローラン・ピック氏を迎えての講演会もあり、今までに経験しなかった国際理解の時間を持つことができました。高校生としての勉強と部活動との両立に悩みながらも、一歩ずつ東高生としての成長を始めた一年でした。

○自己探求の二年生

二年次から新たに荻野敬史先生を正担任に迎え、文系四クラス、理系三クラスに分かれ、それぞれの進路実現に向けての新たな一年となりました。一年生が入学してきて、学校生活も二年生としての自覚と責任を持ったものとなりましたが、まだまだ考えに甘いところもあり心配する部分も多々ありました。そんな中でも、少しずつ自身の将来を真剣に考える姿も見られるようになり、進路についての相談も少しずつ増えてきていました。部活動ではそれぞれが三年生から伝統を受け継ぎ、自分たちらしさを追求しながら日々の練習に取り組みました。二学期には、三年に一度の公開文化祭と修学旅行という大きな行事を二つ経験することになりました。九月の文化祭は、天候不良のため仮装行列は中止、急遽体育館で各クラスのパフォーマンスを発表することとなりましたが、通常は福島駅前で一部の方にしか見ていただくことができなかったものが、全校生を前にして行えたことで大きな盛り上がりをみせました。クラス展示は、工夫を凝らし、そのクラスならではの内容に仕上がり、十分満足がいくものでした。後夜祭での弓道部によるキャンプファイヤーへの点火、そしてフィナーレには花火が打ち上げられ、大成功のうちに幕を閉じました。十一月の修学旅行では広島、姫路、京都、大阪を訪問しました。広島の平和記念公園では、実際に被爆された方の話を伺い、改めて現在の平和な生活に感謝の気持ちを持ちました。また、二日目には世界文化遺産である姫路城を見学した後、奈良や大阪、神戸のコース別研修、三日目は京都市内の班別研修を行いました。最終日には、旅行中二か所目の世界文化遺産である二条城を見学しました。歴史的建造物に触れる機会を持ち、日本史に対して興味関心が高まった生徒も増えたと聞きました。旅行をきっかけに友

人との絆が深まり、また高校生活を折り返したことで、徐々に受験勉強に重きを置く生活にシフトしていきました。

○自己実現の三年生

経験豊富な氏家清和先生、渡部純先生を副担任に迎え、学校創立四十年目の三学年として高校生活完成の一年を駆け抜けました。上位大会出場や入賞を目指して部活動には力が入り、見事に複数の部で全国大会出場・入賞を果たしました。順位や成果はそれぞれですが、夢や目標に向かって練習し仲間と切磋琢磨した経験は、これからの人生に大きな財産として残りました。そして、卒業後の進路目標実現のために学習に力を注ぎ、努力を重ねた姿を至る所で見ることができました。学年団では、二学年の終わりの模擬試験などから、年度当初に改めて各教科での指導目標を定め、特に文系理系ともに入試の鍵となる英語の強化を図ることを確認しました。授業はもちろん平常課外や夏の課外でも足りないところを補い、基礎を確認した上での応用力育成のため、生徒だけでなく我々教員側も教材を工夫し、定着を図るための様々な方策を施しました。冬の課外を経て、最後のセンター試験、そして小論文講座や二次対策の課外など最後の最後まで諦めずに努力を惜しまず、本番では持てる限りの力を出し切り闘い抜きました。進路成績については後述しますが、三月三十一日まで希望がある限り受験する生徒がいたことが文武両道を高校生活の両輪として歩んできた本校の生徒を象徴する姿であるなと思い出されます。

卒業間際になって、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大し、卒業式開催が危ぶまれる事態となりました。幸い、出席者を減らし全員がマスクを着用するという異例な状況ではありましたが、無事に卒業式を挙行していただけたことは、今となれば本当にありがたいことであったと思っております。

○進路実績

三年間を学習と部活動に全力を注いだ結果、国公立大学には八十八名が合格しました。最近はなかなか本校から進学実績が途絶えていた東北大・文、東京農工大・工、筑波大・社会国際と理工、千葉大・工を始めとして、例年と同じく希望者の多い地元の福島大、県立医大・看護、山形大など、それぞれが将来の希望を強く持ち合格を果たしました。文系学部三十七名、理系学部五十一名であり、ここ数年と同様に理系学部がやや多いという状況でした。センター試験が最後の年で戦況が読みにくいところもあり、全国的には早い時期に確実に進学先を決めたいということから私立大学への進学が増加したという傾向もあったようですが、本校では後期試験まで国公立大学に挑戦した生徒の健闘も目立ちました。また、前述した理由や入学定員の厳格化などから私立大学への合格も一部で苦戦する場面も見られましたが、全体的には生徒一人一人が本当に最後まで全力で頑張ってくれたと感じています。当然のことですが、早期から国数英三教科の基礎基本の徹底を図り、大学入試に耐えうる土台をしっかり築いていくことが大切であると確信し、そして、そのためには一日一日の課題などでの積み重ね、定期考査ごとの基礎学習の充実が何よりも近道であると感じました。

東北・全国大会出場報告

※今年度は新型コロナウイルス感染症により全国インターハイが中止となりました。そのため、運動部については最上位の東北大会の出場報告となります。

東北大会出場報告

陸上競技部顧問　菅野　悟史

今年度、陸上部は東北高校新人陸上と東北高校駅伝大会に出場することができた。東北新人陸上は岩手県の北上市で開催された。大会はコロナウイルス感染症の予防から無観客で実施され、一般の応援者は会場に入れず、関係者も声を出すことは禁止、応援は拍手のみというこれまでとは違った状況下での大会であった。本校からは男子１００ｍ（安齋由一郎）、男子８００ｍ（鈴木諒）、男子１５００ｍ（遠藤滉己）、男子４×４００ｍＲ（添田昂弥、長澤椋、鈴木諒、安齋由一郎）、女子１５００ｍ・３０００ｍ（松本怜美）の六名が出場した。ここ数年は、一、二名しか東北大会に出場できておらず、久しぶりに多くの人数を東北大会に送り出すことができた。

さすが東北大会というだけあって、どの種目もレベルが高く、予選で跳ね返されることが多かったが、松本怜美が女子１５００ｍで八位、３０００ｍで七位に入賞することができた。六位までが表彰されるため、本人は悔しかったと思う。是非来年、リベンジしてもらいたい。

東北高校駅伝は岩手県の一関市で開催され、男子と女子のアベックで出場することができた。男子は二年ぶり、女子は十八年ぶり、男女同時の出場は平成九年以来の快挙であった。県

大会を突破するには三年生の力がなければ突破できず、受験勉強と両立しながら十月の県大会まで残ってくれた三年生には本当に感謝したい。東北大会では順位こそ男子が二十位、女子が十九位と厳しい順位であったが、どちらも目標タイムをクリアし、達成感を味わった中で大会を終えることができた。

陸上部員は中学校時代に全国大会はもちろん東北大会にも出場したことがない生徒ばかりで、高校から本格的に陸上を始める者もいる。その生徒たちが地道に努力を続け、県大会や東北大会で入賞し、一緒に達成感を味わえることは指導者にとってこの上ない喜びである。

今年度は、部活動が制限され、多くの大会が中止になり、何もしないまま引退を余儀なくされた三年生もいるなど異例の年であったが、その中でも目標を見失わず地道な努力を続け、力を発揮してくれた選手たちは本当にたくましいと思う。

陸上部として全国大会には平成二十七年以来出場できていないので、来年度は、六年ぶりの全国大会出場と連続での男女東北高校駅伝出場を目標に生徒と共に頑張りたいと思う。

新人戦東北大会出場報告

ソフトボール部顧問　重川　和儀

本校ソフトボール部は、今年度の新人戦県大会において準優勝を果たし、十月に行われた新人戦東北大会に出場してまいりました。今年のソフトボール部は、男子部員が一・二年生合わせて七名と単独チームでの大会出場が困難な状況の中で、安積黎明高校との合同チームを結成し新人戦に臨みました。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中で、合同練習も多くの制約がありました。しかし、数少ない合同練習の中でも選手同士が積極的にコミュニケーションを取りあい、質の高い練習を積むことで、合同チームとしての相乗効果が生まれ、東北大会では本校として史上初の優勝を果たすことができました。悪天候の中での試合でしたが、選手たちは合同チームとは思えないほど声をかけ、励まし合い、試合に集中していました。

合同チームという未知の環境の中で、このような結果を残すことができたのも、ひとえに同窓会の皆様のご支援とご協力のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

本校ソフトボール部は部員数の減少もあり、令和四年度をもって廃部となります。しかし、やる気に満ちた選手たちはこれからもグラウンドに立ち続けます。彼らの熱い思いを絶やさぬよう、これからも日々の練習に励んでまいりますので、温かく見守って頂ければ幸いです。

第39回東北高等学校弓道選抜大会出場報告

弓道部顧問　羽田　真幸

インターハイが中止となり、選手たちにとっては今年度初めての大会となった新人戦の県大会において、本校弓道部二年の鈴木幹士くんが個人戦で優勝し、東北選抜大会の出場権を獲得しました。

大会後も、新型コロナウイルスの感染拡大による大会中止の不安はありましたが、開催を信じて日々できる練習に励み、厳重な感染症対策の中十一月二十一日に岩手県で開催された東北選抜大会の個人戦に出場してまいりました。

結果は、予選二回の中で予選通過に必要な的中が出ず、予選敗退と悔しい結果に終わりましたが、幹士くん自身は、試合に出場できたことに感謝し、試合の中で良い手応えを感じながら自分の思うような射が体現できたことに満足していたことを聞き、顧問としても選手の成長を感じることができ嬉しい気持ちのまま大会を終えることができました。

通常は出場できた全国選抜大会ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により全国選抜大会の個人戦が中止となり選手には大変気の毒ではありますが、この東北選抜大会で得た経験が弓道部を盛り上げ、次年度のインターハイの良い結果へ繋げてくれると思います。

この度の東北選抜大会出場に際し、介添えとしてサポートにあたってくれた二年生の佐久間麻皓くん、弓道部の保護者の皆様、先生方、そして同窓会の方々はじめ多くの方々に格別の御支援、御声援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。本校ＯＢとして過去の輝かしい栄光を作り上げた先輩方と同じように、上位大会の出場報告が続けられるように日々精進いたしますので、今後とも御支援、御指導のほどよろしくお願いいたします。

○第三十九回東北高等学校弓道選抜大会（於：岩手県営武道館弓道場）

選　手：二年　鈴木幹士

（結果：予選敗退）

介添え：二年　佐久間麻皓

第43回全国高等学校柔道選手権大会東北地区大会　出場報告

柔道部顧問　佐々木勝宏

本校同窓会会員の皆様には、平素より本校教育活動への物心両面にわたる御支援を賜り厚くお礼申し上げます。さらに、柔道部ＯＢの先輩方におかれまし

ては、自ら柔道衣に袖を通し、後輩たちへ肉体を通じての愛に満ちた温かい御指導を賜り、重ねてお礼申し上げます。

顧みますと、新型コロナウイルスの感染に振り回された今年度のスポーツシーンでありましたが、高校柔道界も例外ではありませんでした。競技の特性上、濃厚接触が不可欠である柔道は、大会は言うに及ばず日常の活動内容にも厳しい制限が加えられてきました。

そして、感染が収まりつつあった中で厳重な感染症対策を講じながら開催された、十一月の県新人大会及び十二月の全国高校選手権県大会の二大会において男子六〇kg級で二位に入賞した月舘龍之介（一－五）が、東北大会出場権を獲得しました。

皆様ご存じのとおり、十二月からの感染拡大の第三波により福島市に緊急警報が発令され、県北地区の県立学校は年末年始の部活動が禁止となりました。月舘は上記二大会での活躍が認められて県選抜に選出され、十二月末には東北六県の上位者のみによって行われる合宿への参加を予定しておりましたが、福島県チームの合宿への参加が中止となりました。またとない貴重な経験の機会を失ったばかりでなく、東北大会を直前に控えて全く柔道ができない年末年始を過ごさざるを得なかった月舘の無念さは察するに余りあります。

年が明けて、福島市緊急警報が解除され部活動が再開されたのも束の間、今度は福島県の感染レベルがステージ三に引き上げられました。学校においては感染リスクが高い活動として「近距離で組み合ったり接触したりする運動」が禁じられ、またもや柔道部は活動内容を大きく制限されました。「組み合ってなんぼ」の柔道において組むことが許されないわけですから、結局試合へ向けた実戦的な練習をほとんど積むことができないままでの東北大会参戦となりました。

大会は、直前まで中止も危惧されましたが、一月二十二日から二十四日に盛岡市の岩手県営武道館で開催されました。同時期に開催予定であった高校生のスポーツイベント等が次々中止となる中、本大会が開催されたことは決して当たり前のことではありません。地元岩手県の関係者を始め大会運営に関わってくださったすべての皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。大会での感染防止対策は万全で、無観客はもちろんですが、団体試合と個人試合の選手・関係者が完全に隔離されるという異例の厳戒態勢です。さらに、普段なら随行するはずの「付き人」（練習相手）の帯同も許されず、月舘が心細い思いをしたであろうことは想像に難くありません。

二十二日の会場練習では、初の東北大会出場ということもあってか会場の雰囲気に飲まれてしまい、緊張のためガチガチで痛々しいほどでした。二十三日の前日練習でもやはり緊張で硬さはありましたが、徐々に本来の動きを取り戻して調子を上げてくるあたりはさすがです。

そして、いよいよ出番の二十四日。一回戦はシードのため、対戦相手の試合を見ながら対策を立てることができました。結果、初戦となる二回戦の相手は強豪青森山田高校の鹿原選手となりました。中学時代全国大会ベスト16の強者です（月舘がこの事実を知ったら萎縮してしまうと判断した私は、敢えて試合後まで彼には知らせずにおきました。その判断は正しかったようです）。相手は右の相四つ。試合開始序盤からお互いによく攻め合いましたが本戦の三分間で決着がつかず、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア）へ突入しました。相手はさすがに強豪校で揉まれているだけあり試合経験も豊富で、ここで戦法を変えてきました。この辺に経験と環境の差を感じます。しかし月舘もよく我慢し、抜群のバランスで相手の攻撃をかわしながら要所要所で技を繰り出していきます。延長も四分を過ぎ、お互いに疲れが出てきたところ、相手が不十分な体勢でかけてきた肩車を浮落で合わせて「技あり」を奪取。七分四十一秒の熱戦に終止符を打ちました。

準々決勝の相手は名門秋田商業高校（プロレスラー桜庭和志選手の母校）の加藤選手。右の相四つで、厳しい組手で揺さぶりながらの速い技出しが特徴で背負投が強烈な好選手です。組み手に注意しつつ受けに回らなければ十分に勝機ありと見ました。しかし、実戦的で追い込んだ練習を積めていない影響は予想以上に大きく、初戦での消耗もあってか、相手に攻め込まれてしまい、試合開始早々に小内刈で「技あり」を奪われ、一分三十九秒には警戒していた背負投で「一本」を取られて万事休しました。

ベスト8という結果は決して満足いくものではありませんでしたが、前述したような厳しい環境下でもここまでやれたということには大きな手応えを感じています。これも、月舘本人が限られた環境下で、自覚と向上心を持って為しうることに地道に精進を重ねた賜物であり、改めて敬意を表します。加えて、月舘の調整をサポートし応援してくれた柔道部の仲間の支えも不可欠であり、深く感謝するところです。月舘が今回の経験を糧に、己と向き合いながら課題を一つひとつ克服し、さらにワンランク上のステージで活躍できるように見守っていきたいと考えます。また、柔道部員全員が月舘の活躍から刺激を受けて、より高い志を持って柔道に取り組み、『文武両道』を実践してくれることを期待しております（もちろん月舘にも『文』での活躍も期待しています）。

最後となりましたが、福島東高等学校同窓会のますますの御発展及び会員各位のますますの

御多幸をお祈り申し上げるとともに、今後も後輩たちへのより一層の御指導と御鞭撻の程をお願い申し上げ、大会の報告とさせていただきます。

東北大会出場報告

サッカー部顧問　齋藤　克幸

一月二十三日～二十五日にＪヴィレッジで開催された、東北新人大会に参加してきました。十二月上旬の県大会決勝で尚志高校に敗れ二位という悔しい結果となりましたが、十二年ぶりの東北新人大会の出場権を獲得しました。年末から年始にかけて約三週間、新型コロナ緊急警報の影響で、試合、遠征がキャンセルになり、部活動ができない状況でいい準備ができたとは言えないですが、東北大会の開催が心配される中で、選手たちは心が折れることなくひたむきに戦ってきました。夏のインターハイ、冬の高校サッカー選手権大会で大きな成果をあげるために、青森山田高校はじめ東北の強豪校と一試合でも多く経験して、自分たちの実力の現在地を確認し、たくさんの課題を見つけ、今後の活動に活かすという目標をもって大会に挑みました。結果は、青森県代表の八戸学院野辺地西高校に一回戦〇－二で負けてしまいました。目標を達成することはできませんでしたが、選手たちは、全国トップレベルの選手と生活を共にした中で、試合やトレーニングに込める思い、宿舎での挨拶はじめ風格漂う立ち振舞いを学び、感染防止対策を徹底して大会を成功させようと運営に尽力するスタッフや、ホテル関係者や学校関係者への感謝の思い、人数制限のために応援に来ることができなかったメンバーや保護者への思いを感じながら、何よりサッカーができることの喜びを味わいながら、非常に多くのことを学び吸収することができた大会であったと確信しています。

全国高等学校総合文化祭（二〇二〇こうち総文）に参加して

美術部顧問　真柴　毅

全国高等学校総合文化祭（以下「総文祭」という。）は、毎年夏に行われる高校文化部の全国大会です。演劇や郷土芸能、弁論、自然科学など約二十部門あり、開催は都道府県の持ち回りで、文化庁と全国高校文化連盟、地元自治体などが主催しています。「文化部のインターハイ（全国高等学校総合体育大会）」とも呼ばれ、四十四回目の今年は高知県で七月三十一日から八月六日の日程で開催される予定でした。

しかし、新型コロナウイルスの影響によりインターネットを活用して参加者を集めずに開催することが五月に発表され、パフォーマンスの動画や作品の画像をＷｅｂで公開することになりました。

本校美術部からは美術・工芸部門に三年生の岡崎千穂と小山彩音の二人が福島県代表として出品しました。二人とも各種展覧会やコンクールで入選、入賞を重ねてきた実力者です。今回出品した油絵も前年度の県高等学校美術展で構成や完成度を高く評価され、二八五点の中から県代表作品の七点に選ばれました。本校美術部としては二年ぶりの総文祭への出品になります。

二人は、高知県訪問と実物の作品鑑賞、全国の高校生との交流会をとても楽しみにしていたのでパソコンの画面上での参加を残念がっていましたが、Ｗｅｂでの開催は決してマイナス面ばかりではありませんでした。

まず一つ目は、出品者以外でも作品を鑑賞することができることです。通常開催の場合、現地に足を運ばなければ作品を見ることができませんが、Ｗｅｂであればどこでも誰でも何度でも見ることができます。美術部でも夏休みに情報処理室（パソコン室）を貸し切り、一年生から三年生まで全員で全国からの出品作品を鑑賞しました。高知県の高校生らによる開会式や、第一線で活躍する現代作家の講演会の動画を見て現地で参加している気分を味わい、自分たちと同じ高校生が制作した創造性豊かな四〇二点の作品の数々に大きな刺激を受けました。

二つ目は、出品者同士の交流を目的に開設された「Ｗｅｂ美術館　交流会」です。総文祭のホームページは一般の誰でも見ることができますが、この「Ｗｅｂ美術館　交流会」は美術・工芸部門の出品者だけが入ることのできるＷｅｂサイトになっています。好きな作品に「いいね」ボタンを押したり、コメント欄に書き込んで全国の出品者と感想を伝え合ったりすることができます。本校の二人も「見

▶『理想は映らない』　３年　岡崎　千穂

▶『木漏れ日の散歩道』　３年　小山　彩音

てくれた人と直接話せないのは寂しいけれど、感想が文字として残るのはうれしい」と喜んでいました。

今回はＷｅｂ開催の総文祭ではありましたが、インターネットを介して全国の高校生と親睦を深めることができました。動画を鑑賞し、互いに作品の感想をコメント欄に書き込むなど、どれも仲間とともに感性を磨き、高め合い、日々の創作活動のエネルギーとなる貴重な体験です。これらの体験を、これからの創作意欲に繋げ、より高いレベルの作品が生まれることを願ってやみません。

総文祭への参加にあたり、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきました。心から感謝申し上げますとともに、今後も御支援くださいますようお願いいたします。

全国高等学校総合文化祭（二〇二一 わかやま総文）出場権獲得報告

書道部顧問　阿部祐太朗

昨年の十一月十二～十四日、とうほう・みんなの文化センターにおいて、福島県高等学校総合文化祭書道展が行われました。この書道展は、次年度和歌山県で開催される全国高等学校総合文化祭の福島県代表を選考する大切な大会でもあります。本校からは書道部五名が出品し、結果として、遠藤瑠夏さんが福島県代表に選出されました。今回、遠藤さんが制作した作品は、造像記（仏像の由来や紀年などを刻した記）と呼ばれる書の臨書（優れた古典の技法・内容を学び取り書くこと）で、作品構想から完成まで約四ヵ月制作に取り組んできました。切れ味鋭い線と力強い書きぶりで二尺×八尺の大きな紙に書き上げました。

これから全国大会へ向けて、さらに大きな作品を制作することとなりますが、例年とは異なり、新型コロナウイルスの影響で、部での活動も制限されることもあるかもしれません。だからこそ、一日一日の練習を大切にして、日々精進していきたいと思いますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和二年度 部活動報告

●運動部

野球部

▼福島２０２０夏季高等学校野球大会
２回戦　９―２郡山北工（７月19日　ヨーク開成山スタジアム）
３回戦　５―２磐城桜が丘（７月26日　白河グリーンスタジアム）
４回戦　３―４福島成蹊（８月１日　信夫ヶ丘球場）

▼第72回秋季東北地区高等学校野球福島県大会県北支部予選
２回戦　２―11　福島（８月24日　信夫ヶ丘球場）
敗者復活１回戦　11―１福島明成（８月27日　ほばら大泉球場）
敗者復活２回戦　７―６福島西（８月29日　信夫ヶ丘球場）
第４代表決定戦　８―12学法福島（８月30日　信夫ヶ丘球場）
第５代表決定戦　２―１福島成蹊（９月１日　信夫ヶ丘球場）

▼第72回秋季東北地区高等学校野球福島県大会
１回戦　11―４磐城桜が丘（９月13日　県営あづま球場）
２回戦　４―１会津（９月14日　県営あづま球場）
準々決勝　２―27福島商（９月19日　いわきグリーンスタジアム）

▼第31回秋季県北支部高等学校野球選手権大会
１回戦　３―４福島西（10月18日　信夫ヶ丘球場）

サッカー部

▼高円宮杯ＪＦＡ　Ｕ―18サッカーリーグ２０２０（十六沼サッカー場他・順位決定なし）
９／５　２―０白河
９／12　０―０学法石川
９／19　６―３帝京安積セカンド
９／26　２―４郡山商業
10／３　３―２いわき光洋

▼高円宮杯ＪＦＡ　Ｕ―18サッカーリーグ２０２０福島県北（十六沼サッカー場他・順位決定なし）
９／５　１―２福島南
９／12　０―３福島成蹊
９／19　17―０安達
９／26　０―０二本松工業セカンド
10／３　５―０福島西

▼第99回全国高校サッカー選手権福島県大会（10／11十六沼サッカー場、10／24―25Ｊビレッジ）
ベスト８
大会優秀選手　藤原秀斗
１回戦　３―０二本松工業
２回戦　２―１東日大昌平
３回戦　０―２尚志

▼福島県高等学校新人体育大会県北地区予選（11月13日～16日十六沼サッカー場）
優勝
２回戦　４―０橘
準決勝　４―０本宮
決　勝　６―２福島工業
１位で県大会

▼福島県高等学校新人体育大会県大会（11／29新舞子フットボール場、11／30、12／５～６いわきグリーンフィールド）
準優勝（１月の東北大会に出場）
２回戦　４―１相馬東
３回戦　１―０学法石川
準決勝　１―０東日大昌平
決　勝　０―２尚志

卓球部

▼全日本卓球選手権大会県北地区予選
男子
ジュニアシングルス
佐々木・小野（県大会出場）
女子
ジュニアシングルス
植野（県大会出場）

▼全日本卓球選手権大会福島県予選
男子
ジュニアシングルス
佐々木（３回戦進出）
小野（初戦敗退）
女子

ジュニアシングルス
植野（３回戦進出）
▼福島県新人体育大会卓球競技
県北予選
男子
学校対抗　第４位（県大会出場）
個人シングルス
佐々木・小野（県大会出場）
女子
学校対抗　第５位（県大会出場）
個人シングルス
植野・遠藤（県大会出場）
▼福島県高等学校新人体育大会
男子
学校対抗　ベスト16
３回戦　０―３安積
個人シングルス
佐々木（初戦敗退）
小野（３回戦進出）
女子
学校対抗　１回戦敗退
１回戦　１―３会津
個人シングルス
植野（初戦敗退）
遠藤（２回戦進出）

陸上競技部

▼福島県陸上競技選手権大会兼
福島県高等学校体育大会代替
大会　県北地区予選会　※入
賞３位以内のみ
男子
400m　添田昂弥　第３位
800m　鈴木　諒　第１位
川村大樹　第２位
森　大翔　第３位
1500m　川村大樹　第１位
遠藤滉己　第２位
5000m　石井京輔　第１位
遠藤滉己　第３位
110mH　根本祥希　第１位
110mJH　根本祥希　第２位
4×400mR　第３位
添田・鈴木・安齋・長澤
女子
1500m　松本怜美　第１位
3000m　松本怜美　第１位
大内美怜　第３位
福島県陸上競技選手権大会兼
福島県高等学校体育大会代替
大会　※入賞８位以内
男子
800m　鈴木　諒　第１位
文部科学大臣表彰受賞
110mH　根本祥希　第３位
スポーツ庁長官賞受賞
110mJH　根本祥希　第３位
女子
1500m　松本怜美　第６位
3000m　松本怜美　第６位
▼福島県高等学校新人陸上大会
県北地区予選会　※入賞３位
以内のみ
男子
100m　安齋由一郎　第３位
400m　添田昂弥　第１位
長澤　椋　第２位
800m　鈴木　諒　第１位
1500m　鈴木　諒　第１位
遠藤滉己　第３位
5000m　遠藤滉己　第２位
武田隼斗　第３位
3000mSC　奥野陽太　第３位
4×400mR　第１位
添田・鈴木・安齋・長澤
女子
800m　松本怜美　第１位
1500m　松本怜美　第１位
3000m　松本怜美　第１位
渡邉綾子　第３位
4×400mR　第３位
齋藤・松本・近野・神田
▼福島県高等学校新人陸上大会
※入賞８位以内
男子
100m　安齋由一郎　第４位
※東北大会出場
800m　鈴木　諒　第３位
※東北大会出場
1500m　鈴木　諒　第６位
4×400mR　第５位
添田・鈴木・安齋・長澤
※東北大会出場
女子
1500m　松本怜美　第５位
※東北大会出場
3000m　松本怜美　第３位
※東北大会出場
▼東北高等学校新人陸上大会
男子
100m　安齋由一郎　予選敗退
800m　鈴木　諒　予選敗退
1500m　遠藤滉己　予選敗退
4×400mR　予選敗退
添田・鈴木・安齋・長澤
女子
1500m　松本怜美　第８位
3000m　松本怜美　第７位
▼県北高等学校駅伝競走大会
男子　第１位
石井京輔・川村大樹・遠藤
滉己・武田隼斗・森　大翔・
奥野陽太・八巻伶門
女子　第１位
松本怜美・大内美怜・神田
七海・嶺岸咲歩・渡邉綾子
▼福島県高等学校駅伝競走大会
男子　第５位
石井京輔・川村大樹・遠藤
滉己・八巻伶門・森　大翔・
奥野陽太・武田隼斗
女子　第５位
松本怜美・大内美怜・神田
七海・嶺岸咲歩・渡邉綾子
▼東北高等学校駅伝競走大会
男子　第20位
遠藤滉己・森　大翔・石井
京輔・武田隼斗・川村大樹・
奥野陽太・八巻伶門
女子　第19位
松本怜美・大内美怜・嶺岸
咲歩・神田七海・渡邉綾子

バスケットボール部

▼福島県高校バスケットボール
選手権大会県北地区予選
男子
予選トーナメント
福島東94―45本宮
福島東49―128福島南
県大会出場決定トーナメント
福島東131―19梁川・安達東
福島東100―61保原
女子
予選トーナメント
福島東46―49福島南
県大会出場決定トーナメント
福島東36―42保原
▼福島県高校バスケットボール
選手権大会
男子
１回戦　福島東66―86郡山
▼福島県高等学校新人体育大会
県北地区予選
男子
予選トーナメント
福島東131―33梁川・安達東
福島東96―62福島西
１位リーグ
福島東52―82福島南
福島東63―69福島工
福島東43―88福島
女子
予選トーナメント
福島東37―53橘
県大会出場決定トーナメント
福島東64―80安達
福島東45―39保原
福島東48―63福島明成

バレーボール部

▼令和２年度インターハイ中止
に伴う代替大会県北地区大会

男子
予選リーグ
福島東1―2聖光学院
福島東2―0学法福島
ブロック2位
決勝リーグ
福島東2―0福島
福島東2―0福島西
9チーム中第4位

▼FTV杯県北地区予選大会
男子
トーナメント戦
1回戦　福島東2―1福島明成
2回戦　福島東2―0保原
決　勝　福島東0―2福島工
10チーム中第2位
女子
トーナメント予選
福島東2―0福島商業
順位決定リーグ
福島東0―2橘
福島東0―2成蹊
福島東0―2聖光
第4位

▼福島県高等学校体育大会新人大会県北地区大会
男子
予選リーグ
福島東2―0聖光学院
福島東0―2福島
福島東2―0福島明成・保原
ブロック2位
決勝リーグ
福島東2―0福島西
福島東1―2福島工
8チーム中第2位
女子
予選リーグ
福島東2―1安達 福西 聖母
福島東2―1福島
福島東2―0福南
福島東2―1保原
福島東0―2聖光
順位決定リーグ
福島東0―2橘
福島東0―2成蹊
第4位

テニス部――――

▼第66回福島県高等学校体育大会地区代替大会（8月1日）
福島市庭球場
男子
ダブルス
第3位　渋谷匠・二階堂達也(福商)
女子
ダブルス
第5位　白坂琉音・小野葵

▼第24回県北地区ジュニアシングルステニス選手権大会（8月8日～9日）福島市庭球場
男子
第16位　安齋晃成
第18位　大出和樹
第28位　幕田勇翔
女子
第5位　白坂琉音

▼第54回福島県高等学校新人体育大会県北地区予選（9月5日～7日）福島市庭球場
男子
シングルス
第16位　安齋晃成

▼第54回福島県高等学校新人体育大会（10月10日）あいづ総合運動公園庭球場
男子
団体戦（7人制）出場

▼第25回県北秋季ジュニアテニス選手権大会（11月28日～29日）福島市庭球場
男子18歳以下
シングルス
第4位　大出和樹
第16位　幕田勇翔
ダブルス
第7位　安齋晃成・大出和樹
男子16歳以下
シングルス
第5位　斎藤大空
第7位　梅津信太
女子18歳以下
シングルス
第9位　白坂琉音
ダブルス
第6位　白坂琉音・小野葵
女子16歳以下
シングルス
第4位　亀山瑞貴

ハンドボール部――――

▼福島県高校ハンドボールメモリアルマッチ2020（7月24日～25日）
清陵情報高校27―24

▼県北地区高等学校新人ハンドボール選手権大会（10月24日～26日）
予選トーナメント
1回戦　福島29―10
2回戦　聖光学院13―17
決勝トーナメント
1回戦　福島28―9
準決勝　福島工業11―25
シード順位決定戦　福島商業25―20
【最終順位】第3位

▼令和2年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技（11月21日～23日）
1回戦　好間27―17
2回戦　帝京安積14―20
【最終順位】ベスト8

ソフトボール部――――

▼第66回福島県高等学校体育大会代替大会
男子
第1戦　5―6安積黎明
（7月23日　郡山市ふるさとの森ソフトボール場）
（延長8回タイブレーク）
結　果：初戦敗退
女子（合同チーム）
第1戦　2―18平商業
（7月24日　郡山市ふるさとの森ソフトボール場）
（5回コールド）
結　果：初戦敗退

▼令和2年度福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技
男子
準決勝　8―1須賀川
（10月11日　いわき市新舞子多目的広場）
（5回コールド）
決　勝　0―7郡山北工
（10月12日　いわき市新舞子多目的広場）
（5回コールド）
結　果：準優勝
女子（合同チーム）
第1戦　8―18いわき光洋
（10月11日　いわき市新舞子多目的広場）
（6回コールド）
結　果：2回戦敗退

▼第15回東北高等学校男子ソフトボール選抜大会
男子
準々決勝　8―1南陽（山形）
（10月24日　岩手県石鳥谷ふれあい運動公園）
準決勝　3―2白石工業(宮城)
（10月24日　岩手県石鳥谷ふれあい運動公園）
結　果：決勝は雨天のため中止となり、2校同時優勝

バドミントン部――――

▼福島県高等学校体育大会代替大会県北地区予選
女子
個人ダブルス
服部・菅野　第3位

（県大会出場）
個人シングルス
服部愛美　第３位（県大会出場）
▼福島県高等学校体育大会代替大会
女子
個人ダブルス
服部・菅野　ベスト16
個人シングルス
服部愛美　初戦敗退
▼福島県高等学校新人体育大会
県北地区大会
男子
学校対抗　第３位（県大会出場）
個人ダブルス
髙橋・大内　ベスト16
（県大会出場）
女子
学校対抗　第５位（県大会出場）
個人ダブルス
菅野・丹伊田　第３位
（県大会出場）
個人シングルス
菅野帆奏　準優勝
丹伊田彩音　ベスト16
（県大会出場）

柔道部

▼福島県高等学校新人体育大会
県北予選
男子
団体　第１位
個人
60kg級　第１位　月舘龍之介
66kg級　第２位　佐久間颯大
第３位　堀越天馬
73kg級　第１位　鈴木健太
81kg級　第３位　鈴木正敏
90kg級　第２位　山口寛人
女子
団体　第１位
個人
48kg級　第１位　市川菜々美
52kg級　第１位　白鳥遥菜
▼福島県高等学校新人体育大会
男子
団体　２回戦敗退
個人
60kg級　第２位　月舘龍之介
90kg級　ベスト８　山口寛人
女子
団体　１回戦敗退
▼全国高等学校柔道選手権大会
福島県大会
男子
団体　１回戦敗退
個人
60kg級　第２位　月舘龍之介
※東北大会出場（１月22日～24日）

剣道部

▼福島県高等学校新人体育大会
県北予選（９月26日～27日
福島西高校）
男子
団体　第１位　県大会出場
個人
相馬柊太　第２位
檜森絢、西舘拓摩　第９位
以上県大会出場
女子
団体　第５位
個人
齋藤美咲　第11位
県大会出場
▼福島県高等学校新人体育大会
（10月24日　あいづ総合体育館）
男子団体
１回戦（対　白河高校）
１（２）―２（３）
（11月８日　二本松城山体育館）
男子個人
相馬柊太　３回戦敗退　ベスト16
檜森絢、西舘拓摩　２回戦敗退
女子個人
齋藤美咲　初戦敗退

弓道部

▼令和２年度福島県弓道新人大会県北地区予選会（９月12日～13日　福島明成高校弓道場）
男子団体　第２位
本田晃佑、佐久間尊、林琉斗、佐久間麻皓、鈴木幹士、神田穣士、吉野耕章
男子個人
第３位　鈴木幹士
第４位　大内朝陽
女子団体　第４位
松山あかり、福田咲、鈴木梨那、渋谷明日美、若松紗也、佐藤若奈、逸見朱里
▼令和２年度福島県高等学校新人体育大会弓道競技（10月17日～18日　いわき弓道場）
男子団体　第３位
本田晃佑、佐久間尊、林琉斗、佐久間麻皓、鈴木幹士、神田穣士、大江泰樹
男子個人
第１位　鈴木幹士
▼第38回全国高等学校弓道選抜大会（11月１日　南相馬市立弓道場）
男子団体　第７位
林琉斗、佐久間尊、鈴木幹士、本田晃佑
▼第39回東北高等学校弓道選抜大会（11月21日　岩手県営武道館弓道場）
男子個人
鈴木幹士　予選敗退

山岳部

▼令和２年度第28回県北地区高等学校新人登山大会（安達太良山）
参加　令和２年９月５日
▼令和２年度第56回福島県高等学校新人登山大会（赤面山）
参加　令和２年９月25日
※雨天のため登山研修へ変更

水泳部

▼第66回福島県高等学校体育大会代替大会水泳競技大会（郡山しんきん開成山プール）
男子
100m背泳ぎ　１位　岡部理玖
200m背泳ぎ　１位　岡部理玖
▼第55回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会（郡山しんきん開成山プール）
男子
50m自由形　５位　角田拓人
女子
50m自由形　６位　遠藤あゆみ

ダンス部

▼第14回ダンス部発表会　７月24日
▼高校生フェスティバル参加　10月18日
▼飯舘村イベント参加　10月25日
▼第13回日本高校ダンス部選手権バトルトーナメント東日本大会参加　12月28日

●文化部

吹奏楽部

▼令和２年度特別演奏会　７月11日
▼第48回福島県アンサンブルコンテスト県北支部大会　12月13日
打楽器四重奏　金賞（代表）
混合七重奏　銅賞
木管三重奏　銀賞
サクソフォン四重奏　銀賞

合唱部

▼第18回定期演奏会　８月11日
▼第74回福島県合唱コンクール　８月29日
高等学校部門　金賞
▼第37回福島県声楽アンサンブ

ルコンテスト　12月12日
高等学校部門　銀賞

演劇部

▼県北地区高等学校演劇連盟研修会参加
「高校生活満足度向上委員会」（作：宍戸結実）

▼県北地区高等学校演劇連盟コンクール参加
「見えない未来を見てみたい」（作：宍戸結実）

美術部

▼第44回全国高等学校総合文化祭（WEB SOUBUN）
文化連盟賞
3年　岡﨑千穂

▼第54回福島市民美術展覧会
美術賞
3年　岡﨑千穂

▼福島市明るい選挙啓発ポスターコンクール
高校生の部　最優秀賞
1年　長尾実穂

▼福島県明るい選挙啓発ポスターコンクール
高校生の部　優秀賞
1年　長尾実穂

▼福島県「家庭の日」作品コンクール
優秀賞
1年　福田美羽
優良賞
1年　阿部　蓮

写真部

▼技術講習会　7月24日

▼校外撮影会（飯坂温泉街）8月9日

▼地方創生イノベーションスクール2030主催「高校生フェスティバル」参加　10月

▼第39回福島県高等学校総合文化祭写真展参加　12月
優秀賞
「頭になにかのってる」
1年5組　今野陽喜

科学部

▼令和2年度「科学の甲子園」福島県大会
総合競技の部　第3位
実技競技の部　第5位
筆記競技の部　第4位
総合成績　第5位

書道部

▼第25回全日本高等学校書道コンクール
半紙の部
準大賞　2年　遠藤瑠夏
優秀賞　3年　本多未奈
優良賞　3年　高橋愛実
佳　作　3年　吉田陽菜子
3年　佐藤ひなた
条幅の部
全高書研賞　3年　佐藤ひなた
優秀賞　3年　高橋愛実
優良賞　3年　馬場明里
佳　作　3年　朝倉ちひろ
3年　齋藤朱夏

▼第29回国際高校生選抜書展入選
3年　佐藤ひなた
1年　渡邉美南海

▼第44回福島県書道連盟展
個人賞
大　賞　3年　佐藤ひなた
奨励賞　3年　高橋愛実
2年　遠藤瑠夏
1年　渡邉美南海
特　選　3年　菊田真菜
3年　倉島彩乃
3年　本多未奈
3年　吉田陽菜子
3年　髙橋由華
3年　馬場明里
3年　齋藤朱夏
秀　作　3年　横山幸穂
3年　朝倉ちひろ
2年　志賀大二郎
1年　石黒智尋
団体賞　団体特別賞

▼第39回福島県高等学校総合文化祭書道展
全国総文祭（和歌山県）出場権獲得　2年　遠藤瑠夏

放送委員会

▼令和2年度福島県高校放送コンテスト（第38回福島県高等学校総合文化祭）（オンライン開催）（9月2日～5日予選審査会、9月6日～8日決勝審査会、9月11日審査結果発表）
創作脚本部門（ラジオ）
最優秀　「大人のモノサシ」
2年3組　宍戸結実
企画書部門（テレビ）
優　良　「大麺でまちのこし」
1年6組　熊田優希

▼第25回福島県高校新人放送コンテスト（11月15日とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター））
朗読部門
佳　作　「手袋を買いに」
2年3組　宍戸結実

国語科

▼第44回全国高校生読書体験記コンクール福島県選考会
優秀賞
1年1組　酒井咲良

英語科

▼第72回福島県高等学校英語弁論大会
第1部　第1位
2年2組　遠藤あゆみ

令和二年度（39期生）部活動を終えて

生徒会

生徒会は、これまでの生徒会を倣い、生徒会役員の努力と生徒全体の協力を得て、生徒の中心に「生徒会」の存在感を強めているように思われます。今年度は大規模な行事は行われず、その分「意見箱」及び「生徒会新聞」を通じて学校全体の活性化に取り組んだのが主な業務です。多くの生徒の依頼や要求など様々な意見が生徒会の手によって実現したこともあり、正に生徒主体の校風が着実に定着しつつあるというのが引退した後もひしひしと感じます。私の後に続く後輩たちは非常に優秀で、東高になかった新たな伝統を彼らなら築けるのではないかと勝手な期待を抱く程、私はこれからの生徒会に夢を感じています。先輩方におきましても、これからの東高のさらなる発展をご期待ください。

（渡辺尊儀）

野球部

私達三十九期野球部は、部活動を通して野球ができることのありがたみ、仲間の大切さを学ぶことができました。新型コロナウイルスの影響で休校となり、春大や桜梅戦、日頃の部活動ができなくなりました。その時にいつも通り野球ができていた秋を思い出し、部員全員が集まって毎日野球ができることがどれだけ幸せなことだったのか、と考えさせられました。また、夏大があるのかも分からないまま過ごした休校期間は精神的にとても辛かったですが、ラインを通して部員間で声をかけ合って励まし合い、日頃の自主練の内容を共有し合って、モチベーションを高く持ち続けることができました。本当に最高の仲間です。これからはそれぞれ別の道を歩むことになりますが、福島東高校ＯＢの一員としての責任を自覚し、後輩の活躍を見守っていきたいと思います。

（今野　翼）

サッカー部

私は三年間サッカー部に所属し、プレーしてきて学んだことが多くある中から一つ書こうと思います。

それは「継続すること」の難しさです。私自身三年間試合に出場してきて世代が交代する時、負けた悔しさで一番良い雰囲気となりますが、これらの高い意識を保ち続けることがどんなに厳しいことなのか身を持って体感しました。

しかし、私はこの高い意識を保ち続ければ必ず全国に行けるということを信じて、「人に厳しく、自分により厳しく」を基本理念としプレーし続けてきました。

それでも最後負けて思ったのがチームとして一つの理念を貫けなかったのかなと思いました。ですがこれは私にとって大きな財産になると思います。目標を決め、そこまでの筋道を立て、強い気持ちで目指し、失敗しました。私はこの失敗を次に繋げ、より大きな目標を実現させたいと思います。

（藤原秀斗）

卓球部

私は卓球部での活動を通して主に二つのことを学びました。

一つ目は、目標をしっかり持ちあきらめないことの大切さです。私は個人戦、団体戦ともに県大会出場を目標に活動していきました。個人戦も団体戦もどちらも厳しい試合でしたが、必ず目標を達成するという気持ちで最後まであきらめずに全力でプレーしたことで、どちらも県大会に出場することができました。

二つ目は、仲間と協力することの大切さです。団体戦での県大会出場は、一人一人が全力でプレーすることはもちろんですが、部員同士で協力し声を掛け合いながら試合に臨んだことで、達成することができたと思います。

これらの学んだことを、これからの生活にも生かしていきたいと思います。

（大貫啓斗）

陸上競技部

私はこの福島東高校陸上競技部の部長として活動する中で周りで支えてくれる人の大切さを感じました。特に昨年はそれをより実感する年となりました。

昨年は三年最後のインターハイがコロナウイルスの影響で無くなり、それに代わる大会に向けても思うような練習ができず苦しい日々が続きました。そんな状況の中でも顧問の先生がメニューを工夫してくれたり、部員同士で励まし合ったり、家族が一番近くで応援してくれたりなど多くの支えがありました。そのおかげで代替大会では大きな結果を残すことができました。そしてこの経験から自分は多くの人に支えられているとあらためて感じました。

これから大学生となり、より多くの人と関わると思いますが、そんな中でも日々感謝の心を忘れず生活していきたいです。

（根本祥希）

男子バスケットボール部

私が部活動を通して学んだことは、二つあります。

一つ目は、毎日努力をし続けるということです。私達のチームはあまり身長が高いチームではなかったので、チームプレイや声出しなど様々な面で努力をする必要がありました。更に、チームを引っ張っていくために、誰よりも早く行動しようと心懸け、全力で日々の練習をすることで、部長という役割の大変さや個人や集団で成長するということを学びました。

二つ目は、チームのために自分のできることをするということです。私は、怪我により長い間競技をすることができなかった期間がありました。その期間には、不安や焦りもありましたが、練習を客観的に見てアドバイスしたり、様々な事をすることで、自分のできる事で貢献することを学びました。このような事を今後に活かして生活したいと思います。

（村松俊介）

女子バスケットボール部

私は三年間の部活動の中で、仲間の存在の大切さを改めて知りました。私たちは先輩方の目標でもあった「県大会出場」を目指し日々切磋琢磨し練習に励んできました。県大会出場を決めた去年の試合は忘れられません。最後まで勝敗の分からない試合でした。私は部長として冷静にならないと、と少し焦っていました。けれど仲間の頼もしい姿に助けられました。自分が窮地に追い込まれた時に助けてくれるのは信頼できる仲間です。特に、一番傍で支えてくれた三年生の四人がいなければ、私は部長として続けられていませんでした。感

謝の気持ちでいっぱいです。また、私たちに向き合い熱心に指導して下さった先生方には感謝しかありません。

この経験から、自分を支えてくれる仲間や身近な方々への感謝を忘れず、仲間と共に成長できるような人になりたいと思います。

（寺島　空）

男子バレーボール部

私たち男子バレーボール部は日々の練習から真剣に取り組んできました。今年度はコロナの影響で部活動ができなかったり、インターハイがなくなり三年生が結果を残せないまま引退するようになったりと、昨年や一昨年とは違った年となりました。年が明けた今でも再びコロナの影響が強まり始め部活動ができない状況です。そのような状況でも体づくりなどの家でもできることを見つけて、大会で今まで以上に力を出せるように自分の出来ることをがんばっています。顧問の齊藤章子先生にはいつも「学校生活や自分のやるべきことができていないとバレーは上手くならない。」と教えていただいていて、家での生活の中で勉強と部活の両立は大変なのですが、自分やチームがレベルアップできるようにこれからも真剣に取り組んでいこうと思います。

（福井祥太）

女子バレーボール部

私は部活動を通して、仲間の大切さを学びました。

昨年は、部員が六人で大会に出るにも誰一人としてケガや病気になってはならない状況でしたが、全員が自分の体調管理に気をつけて、全ての大会に臨むことができました。

また、今年のチームは、練習での声出しの工夫をしたり、練習後に新しい攻撃を考えて自主練したりして、チーム全員で強いチームを作るために意見を出して、それを実践し、チーム力を高めていました。その結果、目標であった県大会に出場することができました。仲間と一緒に練習を頑張り、目標を達成できた時に、改めて仲間に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

部活動で、仲間と共に努力し、目標を達成したという経験は高校生活においてとても良い経験になりました。

（吉田梨々花）

男子テニス部

私は部活動を通して、視野を広げることができました。テニスの試合だけでなく、日々の部活動の中でも大人数の部員をみるために、それはとても必要不可欠でした。しかし、私が部長として部員をまとめていくなかであまり苦労をしなかったのは私だけでなく部員一人一人が広い視野をもつことができていたのではないかと思います。

今年はコロナウイルスの影響でインターハイ予選は行われなかったので目標達成はできませんでしたが、昨年は、一部の大会で県上位まで到達することができました。このように成長できたのは長期休暇に来てくださった先輩方の影響が大きかったと思います。

このテニス部を三十九期である私たちまで残してくださった先輩方に感謝したいです。そして、これから福島東高校テニス部が存続していくことを期待したいと思います。

（丹治　陸）

女子テニス部

私は部活動を通して、チームメイトとの意思疎通の重要性、そして支え合うことの大切さを学びました。自分たちに足りない部分をお互いに確認することで、チーム全体で協力しながら技術の向上に努めることができました。また、大会での悔しい結果やつらい練習などを通して、仲間がそばに居てくれることの大切さを身にしみて感じました。同じつらさを経験してきた仲間と共に支え合ってきたからこそ、つらい練習も乗り越えることができたのではないかと思います。

今年は新型コロナウイルスの影響で部活動ができない時期が続きました。しかし、こういった大変な環境の中で、テニスができることの喜びを改めて感じることができました。周囲の人の支えがあることを忘れずに、今自分に何ができるかを考えながら生活していきたいと思います。

（尾形汐理）

ハンドボール部

「最初から自信をつけているやつなんかいないんだから、やってる時に自信をつければいいんだ。」「仲間ならもっと喧嘩すればいいんじゃないの。」

これらは外部のコーチである上野先生が私達に向けてかけてくれた言葉です。初めてこれらの言葉を聞いた時は正直意味がわかりませんでした。しかし、練習や大会をするうちにこれらの本当の意味がわかるようになりました。自信がないからやらない、仲間だから喧嘩をしないということではありません。挑戦しないことには何も始まらず、仲間だからこそ素直になり喧嘩をし、互いに高め合うということです。

部活を通してこれらを含め多くのことを学びました。高校を卒業し、つらく厳しい社会に出た時に、部活で学んだことを胸に挑戦し続けていきたいと思います。

（太田隆之介）

男子フトボール部

私が部活動を通して学んだことは〝努力〟〝仲間〟です。私自身、中学校の時に野球には取り組んできましたが、ソフトボールは初めての挑戦でした。やはりソフトボールと野球は全くもって別物であり、打撃や守備、走塁すべてにおいて苦労しました。しかし、純粋にソフトボー

ルを楽しみたいという思いから、毎日〝努力〟し続けました。そこにはいつも先輩や同級生、後輩という〝仲間〟という大切な存在が常にいました。互いに励まし合って切磋琢磨できる経験は、特にチームプレイを重要視するソフトボールならではなのだと、三年間を通して学びました。部活動を通して、他にも数多くのことを学びました。このことは今後、社会に出るにあたって、必ず役に立ち自分を助けてくれると確信しています。そして、後輩にこの良き伝統を継承していきます。

（古山和生）

女子フトボール部

女子ソフトボール部は人数が少ない中で他校と連合チームを組み、日々の練習に取り組んできました。連携を深める機会が限られ、思うようにいかないこともありましたが、そこで二つの事を学びました。

一つ目は仲間を思いやる気持ちです。ソフトボールは団体戦なので、試合に臨むごとに改善点や反省点は必ず出てきます。そういった場面でも、次にどのように活かしていくかなど一人一人の意見を尊重して改善していきました。

そして二つ目は全力で取り組むことです。あたり前の様に感じるかもしれませんが毎日続けることはとても難しいことです。冬のバッティング練習では寒さで怠ってしまう時がありましたが、この練習を春の試合で発揮できるように仲間と一緒に全力で取り組みました。今年は試合などが潰れ、代替大会となりましたが、良い経験をすることができました。

（菅野彩水）

男子バドミントン部

私は部活の雰囲気が大好きでした。部活が始まると一人一人のスイッチが入り互いに高めあうことができました。あの時の感覚は今でも忘れません。バドミントン部のチームTシャツに「近道などない」とあるように、先輩方は基礎練から手を抜かず目標にしたい先輩方でした。

私が部活動を通して学んだことは仲間づきあいです。バドミントンは個人競技ですが、しかし仲間と支え合い、きつい練習メニューで心が折れそうになった時にも仲間の存在が私を奮起させました。一人では成し遂げられないようなことも隣に仲間がいることで一歩踏み出すことができました。

新型コロナウイルスで思うように部活動ができない中、最後までやりとげられたことは自分の一番の自信につながりました。

（廣野悠斗）

女子バドミントン部

私が部活動を通して学んだことは努力の大切さです。

走ることが多かったり、練習しても思うように結果が出なかったり苦しいときもたくさんありました。しかしどんなに苦しくても諦めないでコツコツ努力することによって新人戦では四年ぶりに女子団体県大会出場を決めることができました。このとき努力した分だけ結果がついてくるということを実感し、がんばってきてよかったと感じました。

さらに高体連に向けてより一層一人一人の意識が高まる中、新型コロナウイルス感染が拡大し大会が中止となりました。しかし代替大会を開催していただいたことに感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

今後、苦しい場面や辛い場面も多くあると思いますが部活動で学んだことを生かして乗り越えていきたいです。

（服部愛美）

柔道部

私が部活動を通して学んだことと教えられたことは、効率の良い準備の大切さです。大会で良い結果を残すためには、苦手な動きや相手の対策、技の質の向上など時間を無駄に使うことができません。時間を無駄に使わないように顧問の先生が時間を割りあて、また、自分で考えることを進めてくれました。この効率の良い準備のおかげで県北大会で良い結果を残すことができました。

私はこの経験を勉強や大学生活に生かし、できるだけ時間の無駄を減らしたいです。

（宮崎滉誠）

剣道部

私は、三年間剣道部としてたくさんの方々に支えられ、充実した時間を過ごすことができました。

私が剣道部員として過ごす中で一年次、二年次、三年次に見てきた部の姿はそれぞれ異なりますが共通していたことがあります。それは、部として一つの目標に向かって努力し続ける姿です。掲げた目標を達成することは素晴らしいことです。しかし、一番大切なのは目標に向けて仲間と共に努力する過程にあるということを学びました。嬉しい事、辛い事など様々な経験を共有したからこそ個人としても集団としても成長することができました。

剣道部で過ごした三年間は、私の高校生活においてかけがえのない日々でした。剣道部で学んだことを胸に刻み、誇りをもって未来へ突き進んでいきます。

（立子山新太）

弓道部

三年間の部活動の中で私が学んだことは二つあります。

一つは、自分の力の限界です。自身の技能の上達は、仲間から新たな視点を得ることで切り拓くことができ、部全体が同じ方向を見て足並みを揃えるには一人一人の協力が必要です。一人で成し得ることには限界があると自覚し、周囲の人々の支

えを認識してからはさらに身が引き締まりました。

二つ目は、粘り強さの大切さです。低迷期に差し掛かり、心が折れそうな時にこそ根気よく挑むことは大きな力となりました。容易ではありませんが、乗り越えれば自信となり、自らを奮い立たせる原動力になります。

今年度は異例の事態が多く、不完全燃焼であったことは否めませんが、無駄なことは一つもなく、部活動で得たものは唯一無二のものとして大事にし、自らの成長にいかしていきたいと思います。

（金戸怜優）

山岳部

僕が一年生のとき、夏の合宿で槍ヶ岳に登った。その年は先輩や先生の奮闘で県代表として全国大会に出場した。今ふり返ってみても当時の団結力と満ちあふれていた力には瞠目するばかりだった。

その槍ヶ岳へ挑むにおいて加藤文太郎のことを思わない人はいないだろう。彼は三十歳にして終ぞ下山することは叶わなかった。

僕たちが山頂の大槍と呼ばれる場所に着いたとき、辺りは霧のベールに包まれていて、神々の霊峰を一望することはできなかったがそれは同時に〝もう一度ここに来たい〟という純粋な欲望を僕に与えることになった。加藤氏もこの様に山に魅入られたのだろう。

活動の中で得たもの、零れ落ちた事、夥多あったが、決して掛け替えのない思い出などにはならず生きて僕たちの血となり肉となる経験として心の内に今なお息づいている。

（菅野天輝）

水泳部

私は三年間水泳部員として活動し、二年生の後半からは部長として部員を牽引する立場になりました。以前は、私自身がベストパフォーマンスするために何ができるかしか考えることができず、周りに気を配ることができていませんでした。しかし部長になってから、自分のことだけを考えていては、リレーで東北大会に行くというチームの目標も達成することができないと感じました。そのため、常に周りの部員のコンディションを確認し、緊張したり不安になっているのであれば、コミュニケーションをとったりすることで少しでも緩和させるといったことを心掛けるようになりました。今年度のインターハイは開催されず、不完全燃焼に終わってしまいましたが、これもまた自分に必要な経験の一つだったと信じています。

（齋藤優斗）

ダンス部

今年は感染症対策のため限られた観客での公演となりましたが、七月二十四日の発表会をもって私達三九期生はＦＥＤを卒業しました。

三年間を通してたくさんのステージに立ち、その度に全員で一つのステージを作りあげることの大変さ、楽しさを感じました。また、自分よりレベルの高いダンサーに憧れを持ち、少しでも近づけるように日々練習に取り組んだことで向上心を育てることができました。

部長を任されてからの一年間は、想像以上の仕事の量に苦しみながらも仲間と協力し合い、部全体が良い雰囲気になるよう努力しました。投げ出したい時もありましたが仲間が一緒にいてくれたおかげで三年間を楽しく、充実したものにすることができました。

様々なことがあった三年間で、ダンサーとしても人としても多くのことを学び、成長することができました。

（齋藤大輝）

吹奏楽部

私が部活動を通して学んだことは大きく二つあります。

まず一つ目は仲間の大切さです。一人一人の部活動に対する考え方が違うなか、お互いに支え合っていくこと、たくさんの感動を共有し合うこと、そんな当たり前のことが自分の人生の中でどれほど大切かを学びました。三年間、一緒に演奏した仲間達は自分にとってかけがえのない存在です。

そして二つ目は感謝を伝えることの大切さです。吹奏楽部を支えてくださる多くの方に大会・演奏会を通して音楽で伝えること、言葉・行動で示すことを日々心がけていました。感謝を伝えることは人と人とを結びつける大切なものだと感じました。今年は多くのイベントが中止となりましたが、顧問の先生方、立派に成長した後輩たちのおかげで三年生一同、悔いなく部活動を終えることができました。ありがとうございました！

（佐藤　葵）

合唱部

今年度は「一練托唱」をモットーに互いに高め合いながら活動しました。新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの活動ができないこともありましたが、やるべきことを考えながら練習できました。このような状況下であってもコンクールや定期演奏会を開催できたことに感謝しています。そして合唱できることが当たり前ではないということを実感しました。

私は部活動を通して、人と協力し同じ目標に向かうことで大きな力を発揮するということ、日々の小さな努力の積み重ねが結果に繋がるということを学びました。この学びは、素敵な仲間に出会えたからこそ得たものだと思います。また充実した活動ができたのも顧問の先生方をはじめとする多くの方々のご指導、ご協力のおかげです。これから先も部活動で学んだ経験を活かしながらさらに成長してい

きたいと思っています。

（村山七菜）

美術部

私は、部活動を通して努力し続けることの大切さを学びました。油絵の制作を通して、見る人の心を掴むような作品に仕上げるためには努力の積み重ねが不可欠なのだと感じました。思い通りに進まない時でも決して諦めず目標を成し遂げるために最後までやり抜くことの大切さを改めて知ることができました。

また、協調性がいかに肝要か教えられました。日々の活動を通して、互いに助け合うことを何度も経験し仲間がいることのありがたさに改めて気づくことができました。また先輩や後輩そして先生と話す機会が多くあり協調性の大切さを知るとともにコミュニケーションの必要性についても教えられました。

部活動を通して学んだり教えられたりしたことを今後の生活に最大限に生かしていきたいと思います。

（鈴木あやか）

写真部

写真部では、相変わらず各々の思うがままに写真撮影に取り組み、コンクールへの入賞を目指し、撮影のための技術を磨いています。東高の中では、あまり目立たないような部であると密かに思っていましたが、今年度の新入部員の数はおおよそ二十名ほどであり、良い意味で予想を裏切ってくれたなと思いました。また今年は、外出が厳しく昨年度のように米沢などの遠出はなく、飯坂での研修撮影となりました。人が全くいないというのは、撮影が案外気楽になるものですね。

さて、我々写真部は時に世の事情に身を任せ、その時にしか得られない景色を収める、というような性格も持ち合わせていると思います。我々は写真の意義というものをかみしめ、今後も部としても精進していきたいと思います。ぜひ先輩方のご声援のほどよろしくお願いします。

（渡辺尊儀）

科学部

科学部は「科学の甲子園」と「生徒理科研究発表会」という二つの大会で全国出場を目標にして活動してきました。私は大会当日が近づくにつれ、先輩達から受け継いだ研究テーマと部長としての責任からくるプレッシャーで発表内容やスライドなどのすべてを自分一人で仕上げようと思うようになりました。最初こそ順調でしたが、あまり要領がよくない私は途中で行き詰まり、完成予定日には絶対に間に合わないような状態になってしまいました。そんな時、副部長の八巻君が私に「手伝うよ」とただ一言告げ、手伝ってくれました。他の部員達も独りよがりな私の行動に一切文句も言わず手助けをしてくれました。その甲斐あって、予定日に間に合い、十分な練習もでき、大会では好成績を残すことができ、私は仲間の有難さと大切さを知りました。

（吉川京佑）

演劇部

「自分を変えたい。」そう思ったことがきっかけで、私は演劇部への入部を決めました。入部当初の私は、何をするにも遠慮がちになっていました。部長を務めるのも初めてで、何をすれば良いか分からず、戸惑う時期もありました。

しかし、部活の明るい雰囲気や部員の優しさに救われ、自分の言いたいことを、少しずつではあるけども、言えるようになりました。また、演技をすることや部員全員で一つの作品を作り上げることの楽しさ、舞台が成功したときの達成感など、演劇を通してでしか味わうことのできない経験を沢山することができました。かつて消極的だった私が、様々な経験を通して自分の殻を破ったことで、今まで見えなかった世界が見えるようになりました。演劇部での活動で、私は大きく成長したと思います。この経験は、私の人生に大きな影響を与えてくれました。

（齊藤　凛）

書道部

書道部は自分で選んだ古典作品を様々な大会に向けて練習しています。活動では書風に加えて作品の書かれた時代背景等を学びました。公開文化祭では書道パフォーマンスを行い、書いている過程を発表する初めての経験を通して普段とは違う書道の世界を学びました。また、自分達で内容を考えたことで団結力が強まりました。夏に県内の高校生と行った合宿では、他校の先生方に指導を受けて技術の向上に努めました。さらに東京への研修旅行では、全国の高校生や大人の方々の作品を鑑賞して書道について理解を深めました。最後まで諦めずに、一つの作品を長い期間練習したことで集中力と向上心を得たとともに、支え合い競い合いながら努力する仲間ができたことはいい経験になりました。

最後に、活動を支えてくださった顧問の阿部先生や保護者の方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

（佐藤ひなた）

英語部

私は部活動を通して挑戦することの大切さを学びました。

私が部長になった年、英語部は英語ディベート大会に参加しました。英語部ができてから初めての試みでした。大会当日まで議論をするための根拠となる情報を収集し、議論の練習もしましたが、本番では、相手の主張を理解できず質問に答えられなかったり黙ってしまったりしてしまいました。しかし、最後まであきらめず遣り遂げました。準備が足りなかったことを痛感したと同時に挑戦して良かったと

思いました。実際に経験しなければ気づかない英語の難しさや楽しさに気づくことができました。今回のディベート大会を通して、何事にも挑戦してみることが大切だということを学んだのでこの体験を生かし、英語以外でも新しいことには積極的に挑戦して、より多くの経験を積んでいきたいと思います。

（加藤瑞稀）

放送委員会

放送委員会では、身の周りにある様々なものごとを調査や取材を行いながらアナウンスやラジオなどの形式で発表します。

私は取材と音声や映像の加工を主に行いました。実際に取材を行うと、初めて知ることやものごとの別な一面が見えてきて、驚くことが多くありました。一例として、私たちは土湯こけしの職人の方に取材を行いました。買い手の減少などが原因で徐々に伝統工芸が衰退していく中、「こけし女子」という新たな存在が現れました。通称「こけ女」は全国のこけしを集める若い女性のことを指します。その影響で小さくかわいらしいデザインのこけしの製作が始まるなど、こけし業界に新たな風を巻き起こしています。このように、取材を通してしか分からないことを、多くの人に伝えることのやりがいや喜びを委員会の活動を通して学ぶことができました。

（八巻真史）

応援委員会

私が応援団に入ってまず学んだことは、自分に自信をもって行動するということです。「応援は縮こまっていてはいけない」と先輩に教えていただきました。初めて全校生の前で応援を披露した時は達成感がありました。自分の殻を破ることができたことに対してとても喜びを感じました。そして、試合を応援したり、激励会をしていく中で、応援とは、どんな逆境にも立ち向かい、乗り越えていく力のひとつとなるものであり、応援団とは、全校生を鼓舞し盛り上げることでその力を選手に届けることが役割であり、使命であると学びました。先輩方や、東高校の伝統ある応援団の名に恥じないようにこれからも、応援団で活動してきたことを誇りに思って過ごしていきたいと思います。

（齋藤姫乃）

福島東高校の卒業生から学ぶ

「日常生活に小さな旅を」

二本松市役所観光課
小山聖徳（二十期生）

「菊松くん」人形と一緒に

私は、大学卒業後に福島県内で消防吏員として働いていましたが、二〇一一年の東日本大震災・福島第一原子力発電所事故をきっかけに、福島県復興のため、住民に近い立場で、より幅広い仕事がしたいと思い、市役所職員（一般行政職）への転職を決意しました。現在は二本松市役所観光課に勤務しています。

みなさんは観光の語源をご存知でしょうか。観光という言葉が生まれたのは、一説では中国の易経にある「国の光を観る、もって王に賓たるに利し」という一文からだと言われています。これは、国が長く栄えるために、「王が国の光（威光）を視察する」という意味で、国の繁栄に活かすための経験値を積むという、研修の意味合いが強いようです。つまり、観光の「光」とは、「その土地の素晴らしいところ（特色・魅力）」を指しています。私は、地域にある光がより輝くために、そして、より多くの方に知ってもらえるようにという思いを持ち、観光課の仕事に向き合っています。

観光課に配属された一年目の二〇一八年は、インバウンド（訪日外国人旅行者）が年間三、〇〇〇万人を超えた中で、市のインバウンド担当（英語は不得意です）として、多言語対応の観光パンフレット作成やサイン看板の整備など、市へのインバウンド誘客に関わる業務に携わりました。二年目の二〇一九年からは「二本松の菊人形」担当となり、会場の県立霞ヶ城公園内に菊人形や菊花を展示するため、レイアウトの作成や展示エリアの建設などに携わっています。また、京都競馬場（菊花賞開催時期）や浅草寺など、多くの方が訪れる県外施設にも菊花などを展示し、「菊のまち二本松」のＰＲにも取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響は、様々な分野に大きな変化をもたらしました。観光においては、遠出が出来ない中で、自家用車や徒歩、自転車などを利用して自宅から三十分～一時間程度で行ける範囲での「マイクロツーリズム」（小さな旅）に注目が高まっており、地元の人が地元の魅力を再発見することが期待されています。私の場合は、健康維持のために続けている日課のランニング（一～二時間）の中に、このマイクロツーリズムを組み入れていますが、改めて福島県の雄大な自然が作り出す風景が素晴らしいものだと感じています。（特にサイクリングロードから見える春の花見山や、冬の吾妻・安達太良山系がお気に入りです）

自宅にいる時間が長くなると運動不足が心配になります。春を迎え、暖かい季節になってきました。健康維持のための外出であれば問題はない中で、日常生活に「小さな旅」を組み入れて、三密を避けながら身近な地元の「光」を探してみてはいかがでしょうか。

保原から見える
冬の半田山

転任者の言葉

コロナ禍、少子化の中で

教頭　国分　茂男

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき感謝申しあげます。令和二年四月に着任しました国分茂男と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、着任して約十ヶ月、今までの学校であれば、一学期の始業式で初めて生徒が歌う校歌を聴き、その後先生方と懇親会の席などでも校歌を歌う機会があり、二学期の終業式には大抵自分でも校歌を歌うことができるようになっていたように思います。私だけかもしれませんが、校歌を暗唱できれば、晴れてその学校の一員となることができたように感じていました。教員の懇親会の最後に肩を組み合いながら校歌を斉唱する学校もあり、校歌を一緒に歌うことで団結力を感じ、明日も生徒や学校のために頑張ろうという気持ちになったものです。

同窓生の皆様も御承知のとおり、今年はコロナ禍にあります。着任式、第一学期始業式は放送で行われました。入学式は体育館で行われたものの、次の日からラッシュ時を避けるため午前九時までの登校となり、対面式等も放送となりました。生徒の様子がつかめないまま、政府の緊急事態宣言が全国に拡大され、四月二十一日(火)から五月六日(水)まで臨時休業となりました。結局、ゴールデンウィーク明けも臨時休業が続き、五月後半からようやく出席番号の奇数、偶数と隔日に登校する分散登校が実施され、久しぶりに生徒と会うことができるようになりました。

いつもの年であれば新しい教科書や新しいクラスメイトと一緒になることでやる気が芽生え、高校生の前向きな姿が見られる頃であります。特に東高では部活動に新しいメンバーを加え、活気が溢れるとともに桜梅戦で団結力を増す時期だと聞いていました。また、ゴールデンウィーク明けには、高体連の地区大会が始まり、三年間の練習の成果を発揮する時期でもあります。もちろんコロナ禍により、多くの業種で業績が悪化し、倒産や失業が相次いでいること、また世界的にも感染者が増加し、ロックダウンなどに陥っている都市があることについてはたいへんなことだと感じています。学校が正常な教育活動を行うことができないことは、それらと比較すればそれほど大きなことではないかもしれませんが、教員としての生活が長く続いている私にとっては、桜が咲き、爽やかな五月の陽気に包まれても、生徒がいない学校は、本当に物足りなさを感じたものでした。東日本大震災の時は四月になってからも時々大きな揺れが学校を襲い、また、期間の長短、強弱はあれ、何らかの形で放射線の影響を受けました。東日本大震災は千年に一度と言われ、まさか自分がそのような災害を経験するとは思っていませんでしたが、今回の感染症についても、自分がその時代を生きることになるとは思っていませんでした。

球技大会、文化祭、修学旅行などの学校行事にとどまらず、運動部、文化部を問わず、大会や発表会が中止になりました。この原稿を書いている十二月には、授業や定期考査は通常どおりでしたが、終業式は放送で行われました。結果として、校歌を聴く機会がない、校歌を歌うことができない、私としては異例の十二月を迎えることとなりました。もちろん一日も早く、人類が新型コロナウイルスに勝利し、高らかに東高の校歌を歌うことができるようになってほしいと考えています。

話は変わりますが、全国的に人口減少期に入っています。特に少子化の影響により子どもが少なくなっています。福島市、あるいはその周辺の市町村においても、小中学校の統廃合が見られるようになりました。高校においても例外ではなく、私自身も平成二十五年度に勤務した学校から少子化の影響を実感しています。かつては一学年十クラス、全校生徒千人以上いたその高校は一学年六クラスとなり、ふたつある昇降口のひとつが閉鎖され、実質的に物置となっていました。私の前任校は複数ある校舎の中で二、三階部分を使っていない校舎がありました。聞くところによると、ある学校では、まるまる一棟使っていない校舎があるといいます。生徒数が少なくなり、清掃にも支障が出て、一週間に一度だけ、あるいはその区域の清掃は行わないなどという学校もでてきています。東高はといえば、現在二、三年生が一学年七クラスで、一年生から一学年六クラスとなっています。各階に講義室がひとつずつあり、選択授業が行われ、校舎のすべてが活用されています。一学年六クラスといえば、四十一年前の開校当初の六クラスに戻ったことになります。現在の一年生は二百四十名の定員ですが、東高で最も多かった時代は四百三十名ほどの入学生を迎えていたこともあったようです。

今年度創立四十周年記念式典を実施する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となってしまいました。しかし、夏休み以降感染防止に配慮し、様々な大会、発表会が行われました。県大会はもちろん、東北大会へも出場した部活動も見られました。これが本来の東高の姿なのだと思っています。

黎明期の方々は東高の伝統を築くため、勉強に部活動にと一生懸命頑張ったのだと思います。コロナ禍にあり、感染防止に重点が注がれている中でも、東高の文武両道の精神は四十年の時を経て、着実に受け継がれていると感じています。

結びに同窓生の皆様には創立五十周年に向けて、今まで以上の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、転入者の言葉といたします。

編集後記

今回の福島東高校同窓会会報第十七号発行にあたり、同窓会会長様をはじめ多くの皆様方に御多用のところ、原稿や資料を御寄稿頂き厚く御礼申し上げます。

昨年発行した第十六号では、新元号や新しい時代のはじまりに期待を寄せて一月はじめに記事を書きましたが、そのときはこうも世の中が一変するとは想像もつきませんでした。今年度は新型コロナウイルスという目に見えない敵の恐怖や不安と闘う一年となり、同窓生の皆様におかれましても、本当に苦しく我慢の一年になったかと存じます。

在校生のことについて触れると、新生活への期待を胸に新入生全員がマスク着用で入学式に臨んだのも束の間、四月下旬から約一か月間の臨時休校、各種行事においても放送での実施や中止といった対応がとられ、東高校の伝統のひとつである「マラソン大会」も中止となりました。また、高校最後の大会であるインターハイの中止、コロナ禍の中で初めて実施される共通テストと、今年度の三年生にとっては戸惑いや混乱、不安と戦い、多くの我慢を強いられておりました。

そのような中でも、私が思う以上に生徒たちは目の前のことに一生懸命取り組み、万全な対策のもと行われた「スポーツ大会」では、全学年の生徒が目を輝かせて一生懸命プレーする姿が見られました。この辛い生活の中でも生徒の笑顔が見られることの喜び・安心感を得ることができ、行事ができる意味、学校のある意味を考えさせられました。

さて、今回の同窓会報では、四十周年記念式典が中止となり、記念事業については記事でのご報告となりますが、東高も次の五十周年に向かって進み始めております。五十周年では多くの同窓生の皆様に御協力をいただくことになるかと思いますので、今後とも同窓会活動への御理解・御協力のほどよろしくお願いいたします。特に、鈴木副会長様の御尽力により、同窓会専用のサイトも立ち上がっておりますので御覧いただき、新たな同窓生同士の交流の場として御活用いただければと考えております。このサイトをきっかけにまた同窓生同士での繋がりを強め、同窓会活動が盛り上がることを期待しております。

コロナ「禍」により先行きは未だはっきりとはしませんが、東日本大震「災」以降この十年の人々の復興の歩みを考えると、きっとまた困難を乗り越えて明るく過ごせる日々が戻ってくると期待しております。他県の先生が書かれていた記事をもとに気になって調べましたが、同じ〝わざわい〟でも「禍」と「災」では意味が異なるそうです。人の力によってどうにかできる「禍」に打ち勝ち、福島東高校に関わる全ての方々に幸せが訪れることをお祈り申し上げます。

結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、大変な中ではございますが今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

（二十期生　羽田　真幸）

令和元年度　転出者

職名	氏名	転出先
教頭	森　和茂	退職（安積高校常勤講師）
事務長	津田仁志	退職（教育庁財務課再任用）
教諭	氏家清和	退職（川俣高校常勤講師）
教諭	佐藤信治	退職
教諭	金川勇次	退職（福島南高校常勤講師）
主任用務員	吉成　啓	退職（継続）
校長	吉田強栄	磐城高校
教諭	荒川政浩	葵高校（教頭へ昇任）
教諭	根本美穂子	福島明成高校
教諭	鈴木利栄	白河高校
教諭	佐藤裕隆	福島北高校
教諭	湯澤智幸	郡山高校
常勤講師	安齋　守	退職（継続）
常勤講師	伊豆幸男	退職（福島高校常勤講師）
常勤講師	中里妃呂美	退職（相馬農業高校常勤講師）
常勤講師	大和田信治	退職
実習助手(期付)	三浦和子	退職（継続）
養護教諭(期付)	丹野ななみ	いわき総合高校（新採用）
非常勤月手当講師	木村加久子	退職（継続）
時間講師	黒澤光希	退職（安達東高校時間講師）
専門員	菅野嘉之	退職（継続）
業務員	菅野秀之	退職（継続）
臨時事務補助員	佐藤啓子	退職（継続）
PTA雇用職員(兼：校長協会雇用職員)	對馬綾子	退職（継続）

令和２年度　転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	二瓶晃一	湯本高校	英語
教頭	國分茂男	福島北高校	地歴公民
事務長	佐々木純子	商工労働総室経営金融課主幹	
教諭	佐藤道郎	橘高校	国語
教諭	相澤　充	安達高校	地歴公民
教諭	川﨑かおり	白河高校	数学
教諭	佐々木勝宏	保原高校	保健体育
教諭	浜田敬子	白河高校	英語
教諭	小野桃子	教育センター長期研究員より現場復帰	国語
教諭	渡邉大海	二本松工業高校	数学
実習助手(再任)	三浦和子	継続	
常勤講師	安齋　守	継続	地歴公民
常勤講師	鈴木　桜		地歴公民
非常勤月手当講師	木村加久子	継続	英語
養護助教諭(月手)	菱沼　楓		
時間講師	後藤史郎	福島高校時間講師	数学
専門員	菅野嘉之	継続	
専門員	吉成　啓	継続	
会計年度任用事務職員	須田惠子		
業務員	菅野秀之	継続	
PTA雇用職員(兼：校長協会雇用職員)	對馬綾子	継続	

令和２年度　教育実習生

（同窓生のみ）

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
服部京平	数学	35期	佐藤駿也	音楽	35期
樵　春伽	理科	34期	中村夏美	美術	35期
田口瑠佳	国語	35期	櫻井　諒	保健体育	35期
小林　駿	公民	35期	志賀洋希	数学	35期